創立120周年

東京歯科大学広報

東京歯科大学創立120周年記念式典挙行

平成22年5月22日

2010年4・5月
242号

本号の主な内容

創立120周年記念式典 …… 2
創立120周年記念講演会 …… 9
創立120周年記念祝賀会 …… 15
創立120周年記念学術講演会・第289回東京歯科大学学会 …… 23
創立120周年記念姉妹校交流会議 …… 28
平成22年度東京歯科大学入学式 …… 29

創立120周年記念式典

司会　桑　田　　康

次　第

一.開　式　の　辞	東京歯科大学副学長	薬師寺　　仁
一.国　歌　斉　唱	＜東京歯科大学混声合唱部、ピアノ＞	
一.式　　辞	学校法人東京歯科大学理事長	熱　田　俊之助
一.祝　　辞	社団法人日本歯科医師会	大久保　満　男 会長
	社団法人日本私立大学連盟	納　谷　廣　美 副会長
	東京歯科大学同窓会	大　山　萬　夫 会長
	延世大学校歯科大学	Chung Moon-kyu 学長
	モスクワ国立医科歯科大学	Oleg Yanushevich 総長
一.登壇者紹介		
一.建学者顕彰		
一.永年勤続者表彰		
一.校　歌　斉　唱	＜東京歯科大学混声合唱部、ピアノ＞	
一.御　礼　挨　拶	東京歯科大学学長	金　子　　譲
一.閉　式　の　辞	東京歯科大学副学長	井　出　吉　信

本学創立120周年記念式典は、平成22年5月22日(土)午後2時より、帝国ホテル東京「富士の間」において、来賓、同窓会役員、父兄会役員、学内関係者等、約550名の参列のもと盛大に挙行された。

式典は薬師寺 仁副学長の開式の辞、国歌斉唱によりはじめられた。まず、熱田俊之助理事長の式辞があり、続いて大久保満男日本歯科医師会会長、納谷廣美日本私立大学連盟副会長、大山萬夫同窓会会長、Chung Moon-kyu延世大学校歯科大学学長、Oleg Yanushevichモスクワ国立医科歯科大学総長よりそれぞれ祝辞が述べられた。

ついで登壇者の紹介が行われた後、熱田理事長により建学者顕彰、永年勤続者表彰がなされた。顕彰状は熱田理事長より血脇家ならびに加藤家に贈呈され、永年勤続者表彰状は代表として金子 譲学長ならびに鈴木イチ市川総合病院事務部医事課長が受けられた。

式典も終盤に近づき、校歌斉唱の後、金子学長より御礼挨拶があり、井出吉信副学長の閉式の辞により午後3時に予定通り終了した。

薬師寺副学長による開式の辞：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

熱田理事長による式辞：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

大久保日本歯科医師会会長の祝辞：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

納谷日本私立大学連盟副会長の祝辞：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

大山同窓会会長の祝辞：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

Chung Moon-kyu延世大学校歯科大学学長の祝辞：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

Oleg Yanushevichモスクワ国立医科歯科大学総長の祝辞：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

熱田理事長より建学者顕彰状を授与される血脇 淳氏（右）：平成 22 年５月 22 日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

建学者顕彰状を授与された血脇氏（右）と加藤栄一氏（左）：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

熱田理事長より永年勤続者表彰状を授与される金子学長：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

永年勤続者表彰を受けた教員代表金子学長と職員代表鈴木医事課長：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

金子学長による式典御礼挨拶：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

井出副学長による閉式の辞：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

式典中の会場：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「富士の間」

式　辞

学校法人東京歯科大学
理事長　熱田　俊之助

本日東京歯科大学創立120周年を迎えるにあたり、本学に対して日頃格別のご支援をいただいております内外のご来賓の方々、ならびに同窓会、父兄会および関係各位多数のご臨席を賜り、記念式典を開催できますことは、東京歯科大学にとりまして真に栄誉なことであり、私自身大きな慶びであります。

本法人を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。

東京歯科大学は、明治23年、本学の創立者である髙山紀齋による「髙山歯科医学院」の開学に始まり、その後、同学院を移譲された血脇守之助のもと発展を重ね、「東京歯科医学院」と改称した後、「東京歯科医学専門学校」、そして戦後まもなく「東京歯科大学」となり、ここに120年の歴史を刻むことができました。

この間、本学は、多くの困難を乗り越え、発展を遂げてまいりました。これはひとえに、各界の変わることないご支援、ご協力のたまものであり、そしてお互いに切磋琢磨して参りました各歯科大学歯学部の相互の協力あってこそだと深く感謝しております。

本年は、創立の年と同じく60年ごとに巡ってくる庚寅の年でございます。庚は改革を表し、寅は動き始めて生ずの意とされています。本学は、創立120年という大きな節目を迎え、歴史と伝統を継承しながら将来を展望すべく、歯科医学教育のパイオニアとして一層の努力をしていく所存でございます。これからの東京歯科大学に対して更なるご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げまして、私の式辞といたします。

平成22年５月22日

祝　辞

社団法人日本歯科医師会
会長　大久保　満男

ご紹介賜りました、日本歯科医師会会長の大久保でございます。本日は、東京歯科大学創立120周年を迎えられ、その記念式典が関係各位ならびに御来賓の皆様方の御出席のもとで、このように盛大に開催されましたことを、日本歯科医師会を代表して衷心より、お喜びとお祝いを申し上げます。

いま、熱田理事長の御挨拶にもございましたように、明治23年に高山先生が我が国初の歯科医学の教育機関を創設されたことは、近代歯科医学と近代歯科医療の大きな門がそこに建ったということだと思います。しかしまた、これも御承知のように、明治という時代は、その前にできたヨーロッパの近代国民国家の国のかたちを日本に移そうという、壮大な、そして大変困難なある種の実験とも言える試みの中で続いておりました。

その時に、近代国民国家の創設の柱に、近代医療と近代医学をヨーロッパから入れる、このことは国の政策として行われましたけども、残念ながら歯科医学と歯科医療はそのなかに入っておりませんでした。したがって、高山先生の明治23年の高山歯科医学院の創設は文字通り、国の力でなく民の力、つまり、高山先生の高い志と自立自尊の精神のもとにつくられたということだと存じます。そしてそれに続く様々な私学の歯科教育機関をつくられた方々も、すべてそのような自立自尊の精神のもとで、自らの力で歯科の教育機関をつくられた、そして、日本に近代に歯科医学と歯科医療を広めようとした。そのことを、私たちはいま、決して忘れるべきではありませんし、同時にそれを私たちは、誇りに思うべきだと思っております。

大変個人的なことでお話ししようかどうか実は迷っておりましたけれども、私の母の父、母方の祖父は、実は血脇先生の門下生でありました。母から、小さい時から聞かされていたのは、その祖父の最大の自慢は、野口英世博士を若い時に知っていたということだと。そして、高山先生と、そして血脇先生の名前は、したがって母の口からよく子供の頃に聞かされておりました。その血脇先生が教育のモットーとしたのは、「歯科医師である前に一人の人間であれ」ということであったというふうに、私は記憶しております。

実は、私の最も信頼する、そして最も畏敬とする友人、最愛の友人に、この三十数年間、世界の演劇界を常に引っ張ってきたフロントランナーがおります。彼が最近、若い演劇人との対談の中で「専門家というのは、専門的な知識や技術を持っている人のことを言うのではない。そうではなくて、その専門的な知識と技術を使って、時に社会を批判し、社会にどのような貢献をするのか、そのことを常に考え続けるのが専門家である。したがって専門家は、そういう精神を持った人、精神のスタイルをいうのだ」と述べています。これは、血脇先生の「歯科医師である前に一人の人間であれ」ということと、私は、根底で通じている考え方だといつも思っております。

御承知のように、今の日本は、大変なスピードで高齢社会を迎えました。平均寿命が、わずか1950年に60歳、その前の400年は、多分、平均寿命は50年くらいだったと思います。それが1950年から今日、わずか半世紀の間に平均寿命が20年延びました。まさに、世界に例を見ない大変な高齢社会となります。この高齢社会を悲惨な社会として迎えるのか、それとも、高齢者をみんなで分かち合う優しい社会として日本の社会を作り上げるのか、まさに今、その正念場であります。私は、歯科医療と歯科医師のミッションは、最後までその人の人生をその人の生き甲斐を食べることを通して支えることだと思っております。その意味で、120年を迎えられた東京歯科大学が、そのような精神のスタイルを持った若い歯科医師を世に送り出していただき、そして日本歯科医師会は、その送り出していただいた方々を大切にお預かりをする、いわば受け皿でありますので、私たち自身も、そのような大切なミッションを掲げて、

そして東京歯科大学をはじめとする歯科の教育機関とともに国民の健康を守るために、これからも続けてその決意を持って、活動をしなければならない。改めて本日ご出席をさせていただいて、その決意を新たにいたしました。

どうか120年のながれをもとにさらに輝かしい伝統を踏まえて、国民の健康のために尽くす歯科医師を送り出していただくことを、日本歯科医師会を代表して心からご祈念を申し上げ、またご期待を申し上げまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございました。

平成22年5月22日

祝　辞

社団法人日本私立大学連盟　代表
明治大学　学長　納谷　廣美

東京歯科大学が、創立120周年を迎えられましたことを、社団法人日本私立大学連盟を代表して、心からお祝いとお慶びを申し上げます。

熱田俊之助理事長先生並びに金子 譲学長先生には、日ごろより日本私立大学連盟をはじめ、日本の教育界においてご指導、ご厚誼をたまわっております。

東京歯科大学は、1890年に高山紀齋先生が、その前身となる日本で最初の歯科医学教育機関「高山歯科医学院」を創立されました。その後、同学院の全てを委譲された血脇守之助先生により発展を重ね、1946年に「東京歯科大学」となりました。血脇先生の教えである「歯科医師たる前に人間たれ」という建学の精神に基づく教育の実践は、今日に至るまで貴大学の学び舎に脈々と受け継がれ、日本の歯科医学会に揺るぎない地位を確立されました。

東京歯科大学と日本私立大学連盟との関わりは、昭和26年に始まる連盟設立時からの医歯系大学唯一のメンバー校という深い繋がりがあります。また、金子学長におかれましては、平成18年に連盟において設置した「医・歯・薬学部学部長等会議」の委員長として長きに亘ってお勤めいただき、加盟する医歯系大学の先導的立場としてご尽力いただきました。「医・歯・薬学部学部長等会議」は、主に4年制総合大学で構成する連盟が、医・歯・薬学という専門分野に焦点を当て、その支援推進のために発足された意義深い会議であります。

連盟設立から現在に至るまで、わが国の私学振興並びに日本私立大学連盟の充実発展のために、たまわっております多大なるご尽力に感謝し、この場をお借りして、あらためてお礼申し上げます。

東京歯科大学の120年という歴史のなかには、多くの試練や困難があったものと拝察いたします。幾多の困難を乗り越えて確固たる基盤を築き上げ、今日の隆盛を成し遂げられましたのは、歴代の理事長、学長を中心として、教職員、卒業生、学生の皆さまのご尽力のたまものと深く敬意を表する次第です。このたびの120周年記念事業のメインテーマを「継承と発展」として掲げられ、改革を推進するみなさまのご努力は、先進的かつ他大学への原動力に繋がる試みを行っているといっても過言ではありません。

教育は国家の礎であり、財産であるといわれているように、わが国の学部学生の約75%を擁する私立大学には、社会を導く人材を育成し輩出する重要な責務があります。そして、常に時代の変化に柔軟な対応ができる私立大学が、個性的かつ先見性に富む試みを導き出し、より一層日本社会の発展に貢献できると信じております。

東京歯科大学が、その輝かしい歴史と伝統とともに、今後、より一層隆昌され、わが国そして世界の高等教育の発展に寄与されますことを心からお祈り申し上げ、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

平成22年5月22日

祝　辞

東京歯科大学同窓会
会長　大山　萬夫

本日ここに、三笠宮同妃両殿下のご来臨を仰ぎ、母校東京歯科大学創立120周年記念式典を厳粛かつ盛大に挙行されますことは私ども同窓と致しましては、このうえない光栄であり、慶びでございます。

また本日は、母校に対し日頃格別なるご指導ご支援を頂いております、ご来賓方のご臨席を賜り、東京歯科大学同窓会を代表致しまして厚くお礼申し上げます。

母校東京歯科大学は明治23年高山歯科医学院そして、同33年血脇守之助先生に継承され、我国最古の歯科教育機関として、多くの歯科医師を輩出し、国民の歯科医療向上に貢献してまいりました。今日ここに、めでたく創立120周年を迎えましたことは、ご同慶の至りでございます。同窓会と致しまして、あらためて感謝と敬意を表する次第であります。しかし歴史をひもときますと、決して平穏に経過した訳ではなく、明治・大正・昭和戦中戦後と多くの苦難に対面して参りましたが、如何なる時も血脇校長を中心として、同窓会員は母校愛を炎の如く燃やし、大学を支援し盛り立てて来ております。ここに私達の先輩の素晴しさを讃えるものであります。

大学は創立120周年を機会に、大きく変化しつつ有る社会を見据え、千葉より水道橋に回帰すべく、「継承と発展」のテーマのもと、目下粛々と厳しい社会情勢に対応しつつ、移転事業を進めておられます。今大学は新たに大きく羽ばたこうとして居ります。

今後母校の教育的・学術的研究業績の向上・グローバル化等により、日本の歯科医療界のさらなる向上に大きな貢献が期待されます。

この様なとき、我々同窓会は先人の母校に対する熱い情熱に思いを致し、同窓会員9500有余名、連帯感を持って母校事業に、建学の精神「歯科医師たる前に人間たれ」を念頭に、同窓会の本来の目的を再確認しつつ、大学の更なる発展を願い、大同団結ご支援致す所存であります。

今後、水道橋移転の大事業が着実且円滑に進み大学の輝かしい歴史が展開されることを同窓会員一同期待申し上げております。

本日の記念式典にご参集の皆様におかれましては今後一層東京歯科大学にお力添えをお願い申し上げます。

大学教職員の皆様には公務多端の折、ますますご自愛の程お願い申し上げます。

ご出席各位様のご健勝を祈念申し上げ、大学創立120周年式典に当りお祝辞と致します。

平成22年5月22日

祝　辞

延世大學校歯科大學
学長　Chung Moon-kyu

私は延世大學校歯科大學学長のチョンムンギュと申します。

この度、東京歯科大学創立120周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

これも偏に諸先輩並びに皆様の絶ゆまぬ努力の賜物と存じます。

日本最古の歯科大学として数多くの優秀な人材を永きに亘り輩出し、歯科医療発展に尽力した功績は多大であります。

継承と発展という言葉に込められてありますように、この良き伝統を後世へと伝えると同時に、東京

歯科大学、延世大學両校が更に友好を深め、切磋琢磨し、熱意と希望に溢れた未来の創造へと共に歩を進めて行くことを祈念致します。

甚だ簡単ではありますが、これをもって私の挨拶と代えさせて頂きます。

平成22年5月22日

祝　辞

モスクワ国立医科歯科大学
総長　Oleg Yanushevich

Dear ladies and gentlemen,

It is a great honor and pleasure for me to speak here today, on the occasion of the 120th anniversary of the Tokyo Dental College.

Allow me to wish you the best of health, success in your work and prosperity on behalf of the staff of Moscow State University of Medicine and Dentistry that I have the honor to head and represent here.

The age of a hundred and twenty is that of wisdom, and your everyday activities are demonstrating a great potential for training highly qualified dental specialists and providing state-of-the-art dental services to the Japanese population. Your college headed by Prof. Yuzuru. Kaneko, a major specialist in dental anesthesiology and former president of the international federation of dental anesthesiology societies, has won a deserved respect of the international community and its specialists are notable for numerous publications worldwide.

As to our university, we have turned 88 this year. We are much younger, and as such, are trying to study your remarkable achievements and put them into our practice. We are proud of the agreement on mutual cooperation signed by our universities on June 5 three years ago that enables us to exchange experience in training dental personnel and dental disease management.

At the request of our university's Academic Council, I'd like to give over to you, as a memento of today's event, the Academic Address that carries words of our high appreciation of the work done by the Tokyo Dental College, and express my gratitude to Prof. Kaneko and other college leaders for the invitation to attend the ceremony.

Thank you

皆様

東京歯科大学創立120周年に当たって、本日ここでご挨拶できますことは、私にとりまして誠に名誉なことであり、また喜びとするところであります。

私が総長を務めますモスクワ国立医科歯科大学の教職員を代表して、ここに、皆様のご健勝と、皆様のご尽力が実を結びご繁栄につながることをお祈り申し上げます。

この120年間は英知の時代でありました。皆様の日々の活動は、高い技能を有する歯科専門家の育成に大きな可能性があることを示しており、また、日本国民に最先端の歯科医療を提供するものであります。歯科麻酔学の権威であり、国際歯科麻酔学会で会長を務められました金子 譲教授が学長を務めておられる東京歯科大学は、国際社会から高く評価されており、また、同大学が輩出する専門家の方々が発表される数多くの論文は世界中で注目されています。

モスクワ国立医科歯科大学はと言いますと、今年で88周年を迎えました。まだまだ若い大学であるがゆえ、皆様の輝かしい功績から学び、実践に生かしていこうと努めている次第です。両大学が相互協

力に合意し、3年前の6月5日、署名に至りましたことは、私どもにとりまして誇りとするところであります。この合意により、歯科医療従事者の育成と歯科疾患管理において、双方で経験を交換することが可能となりました。

私どもの大学理事会からの要請により、本日120周年を迎えられましたことを記念して、東京歯科大学の功績を称える祝辞を皆様にお贈りしたく存じます。また、金子教授をはじめ、東京歯科大学の皆様には、この式典へご招待くださったことについて厚く御礼申し上げます。

有難うございました。

平成22年5月22日

創立120周年記念講演会

座　長　東京歯科大学大学院歯学研究科長　　柳　澤　孝　彰

演　題

「歯科大学の誕生」

演者　　水　川　秀　海　先生（東京歯科大学昭和34年卒業）

「東京歯科大学の今後の発展」

演者　　学長　金　子　　譲

記念講演会は式典終了後、記念祝賀会に先立ち、午後3時30分より「孔雀の間」に会場を移して開催された。

柳澤孝彰大学院歯学研究科長を座長として、昭和34年本学卒業の水川秀海先生による「歯科大学の誕生」、金子 譲学長による「東京歯科大学の今後の発展」の2題の講演が行われた。講演終了後、創立120周年を記念して製作された海外版DVDが放映された。

※水川先生「歯科大学の誕生」の講演内容は「歯科学報第110巻」に掲載されます。

講演を進行する柳澤大学院歯学研究科長：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

講演中の水川先生：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

講演中の金子学長：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

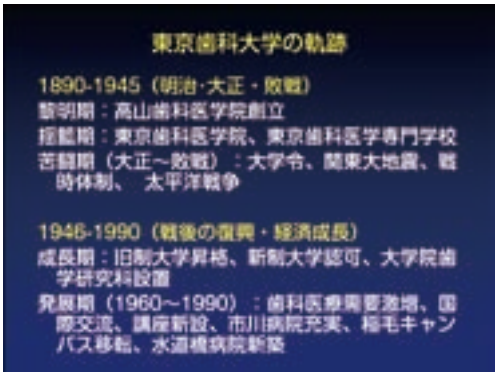
東京歯科大学の今後の発展

東京歯科大学
学長　金子　　譲

東京歯科大学の歴史120年を3期に分けてみます。ただし、この120周年を契機としてこれからの30年を目指すということのために150年を50年ごとに分けて見ますと初期の50年は歯科医学・医療の確立のために苦難の連続でありました。特に大正7年に文部省によって発令された大学令では歯科が取り残されました。その後進展なく昭和の戦時体制・太平洋戦争に突入・敗戦ということでありますので、最初の50年間は歯科医学教育機関の新生とその後の苦闘期となります。

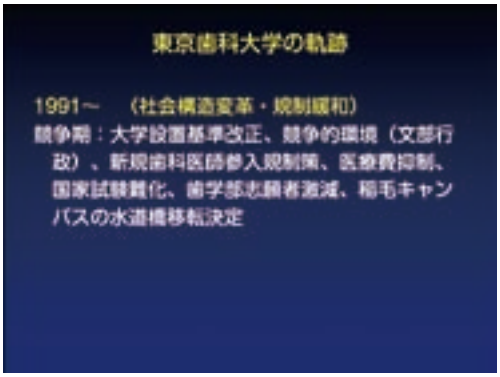
敗戦によって教育体制が一変し、歯科医学専門学校は大学となり教育・研究機関としての高等教育の市民権を得ます。日本の戦後復興によって新しい社会制度整備が進み、国民皆保険となります。歯科受診者の急増に対応できなく、歯科大学・歯学部の多数新設がなされます。東京歯科大学は稲毛キャンパスを新設し、その後水道橋校舎、市川総合病院の新築によって充実させます。これが戦後の50年でありましてまさに成長と発展が示された時代です。

〔1〕



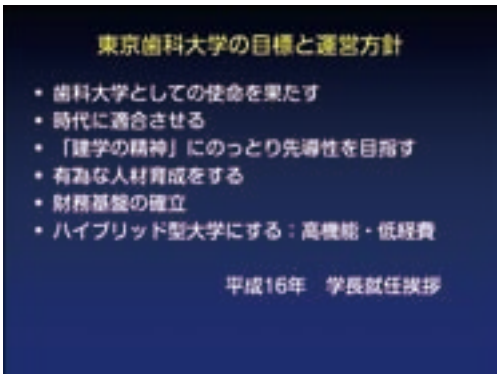
創立100年が過ぎたところで1990年代から日本社会は、世界のグローバル化に対応するために行政によった規制が緩和され、民間活力による経済発展の政策に切り替えられます。教育行政も同様でありまして大学設置基準の大綱化がなされ、第二次ベビーブーム時代が過ぎ、その後の18歳人口減少時代へと突入しようとしている頃から、教育機関は競争の時代に入りました。歯科大学は現在厳しい環境の中にいることはご承知の通りです。東京歯科大学が現在の競争の時期を乗り越えて創立150年のときには充実した大学になっているためにあとの30年の初頭である現在をどう運営するかということが本講演の趣旨であります。**〔スライド1〕〔スライド2〕**

〔2〕



私は、2004年に学長を拝命した折に、運営目標を述べました。教育、研究、診療、社会貢献において歯科大学の使命を果たす。社会、行政のニーズに適合させながらわれわれの大学の建学の精神をバックボーンとして先導性のある大学をめざし、その環境のなかで有為な人材育成をする。このためには財務基盤の安定が重要であり、したがって、高いレベルで使命を果たすが経費は抑えて運営するということであります。これを称してハイブリッド型大学と呼びました。**〔スライド3〕**

〔3〕



その目標にしたがって東京歯科大学は、教育・研究・診療の機能遂行に当たって効果的な結果を得られるための方策を検討し、スライドに示す事項を実行してきまし

た。しかし、このような改革にあたっては、これによって教員のインテンシブとモチベーチョンが低下してはならないのでありまして、したがって改革の目的をよく理解してもらうことが最も重要であります。また、改革が適切であったのかどうか、後に適宜評価することが欠かせないことであります。〔スライド4〕

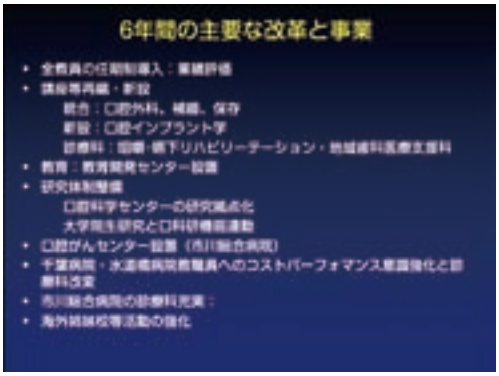
平成20年度には、千葉キャンパスの水道橋移転が法人理事会で決定されました。移転は将来構想のハード面としては最重要事業であります。日本経済の活性低下、人口減少、大学機能の高度化の必要性、受験生対策などの理由とともに、財務構造改革を学務の事項において、新施設移転を契機に行っていく予定であります。東京歯科大学の将来の発展のために新しい展開を、水道橋を主体にして、市川、稲毛のトライアングルで行ってまいります。教育・研究・診療の将来のソフトの骨格は昨年全学的な意見と同意によって作成し、東京歯科大学広報に掲載いたしました。この6月から新しい大学役職者で運営されだしますので、細かい移転にかかわる運営計画が各部門で立案検討が加速されていきます。〔スライド5〕

さて、「時代に合わす」ということでは、まず国の方針つまり教育研究では文科省によることになります。平成15年大学審議会で高等教育に対しての報告が出ております。こうした大綱を具体化させた結果で大学は評価され、またこれらが競争的資金の対象となっていきます。個性的な大学、質の保証、競争と連携、グローバル、大学院の充実ということであります。このような方針に対して約570校ある私立大学は大きな動きをしていくわけです。他学部に疎い私は東京歯科大学が加盟している日本私立大学連盟から高等教育全体の潮流を掴み取っております。〔スライド6〕

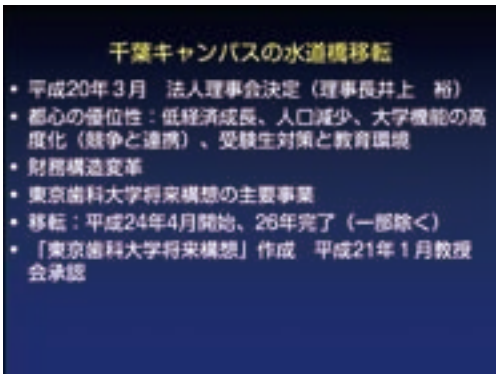
次に高等教育の大きな枠の中で歯科医学教育についての国の指針はどうなっているのかということでありますが、21世紀に活躍する学生をどのような歯科医師に育てたら良いのでしょうか。歯学部教育に関する内容が、平成13年に文科省の会議から出されております。歯科医師としてあるべき人物像を示しております。患者中心、コミュニケーション、倫理、臨床能力、問題発見・解決型人物、常に学ぶ習慣を持つ、世界をリードする生命科学研究者や国際的活躍が出来る人材養成がキーワードとなっています。〔スライド7〕

さらに、最近では文科省から「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告」が出され、現在歯学部として最も重大な問題であります募集定員充

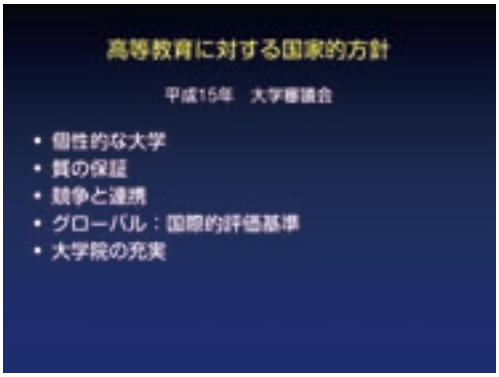
〔4〕



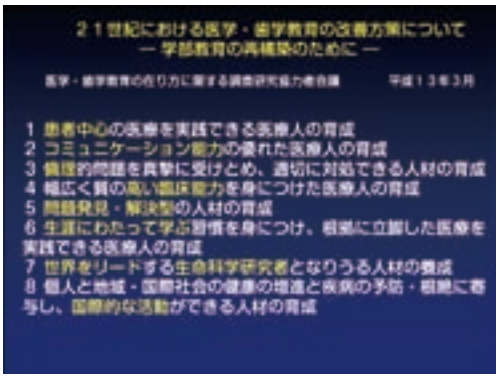
〔5〕



〔6〕



〔7〕



足率・国家試験合格率に対しても言及されております。また、国家試験を所轄する厚労省からは「歯科医師の資質の向上」の観点から国家試験のあり方について報告がされています。〔スライド8〕

21世紀に入りましてから既に10年が経ちました。ご紹介いたしました行政指針やわれわれの日常的な学会活動などの環境から、医科も歯科も研究・診療では新しいパラダイムに移行していることを感じます。その徴候としてはスライドに示すことが今後の主たるキーワードであり、大学の機能もこれを意図して運営することが次の時代への連動であります。過日の120周年記念学術講演会での再生医学に関するご講演から、新世紀の到来を強く感じました。スライドに示す事柄への対応を大学は行う必要があります。

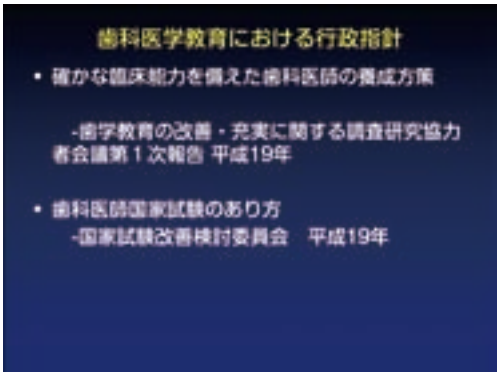
学部や大学院での人材育成と大学活性化のために教育カリキュラム・研究体制の改革が重要であります。特にカリキュラムでは歯科医療に必要な医学知識、また新しい歯科医療開拓のための生命科学を視点とした研究テーマが作れるような創造的人材育成が重要であります。教育研究・卒後研修における医科歯科連携においてより大きな役割を市川総合病院は担っていくことになろうと考えます。〔スライド9〕

教育は教師と学生の相互関係ですので、大学の側の働きかけだけで効果が上がるものではありません。学生は大学の教育によってインパクトを感じることで向上していきます。猫に小判の教育は無駄でありますし、教育者足り得ない先生との接触は、学生を落胆させるだけであります。教員も学生も同じ資質が必要であります。夏目漱石は、五高開校10周年記念式典式辞において「師弟の和熟は育英の大本たり」と述べられましたが、それはこうした意味であろうと解釈いたします。

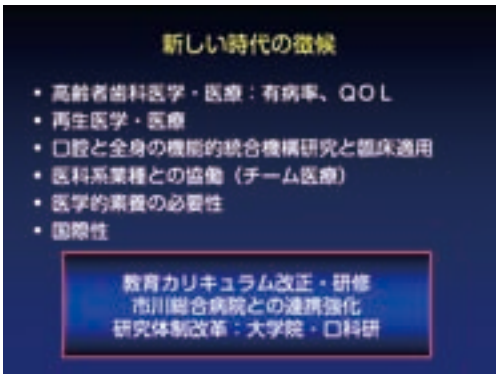
そこで、大学に対して学生の感じていることをデータで見てみます。私たちの学生では教員とのコミュニケーションに対して学年によって大きな差があります。満足感の少ない率を見ていきますと、本学の学生になって2年間は満足していない学生は2割ですが、3年生では半分を超えます。しかし、高学年になるにつれて教員とのコミュニケーションにほとんどが不満を抱かなくなります。この理由は専門教科の密度が増してくること、臨床登院、国家試験と学生は切迫感が増してくるためであろうと考えます。したがって、これを受け止める環境を大学は作っておくということになります。〔スライド10〕

このスライドは歯学部学生の学生生活での充実感を他学部の学生と比較できる興味ある日本大学のアンケート

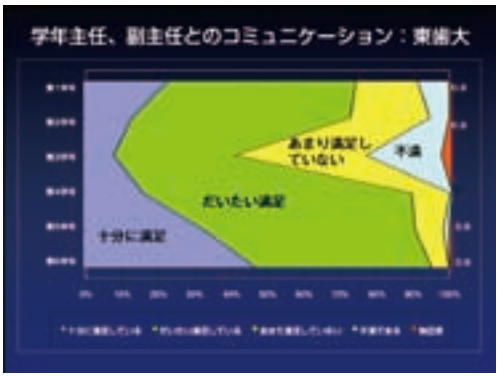
〔8〕



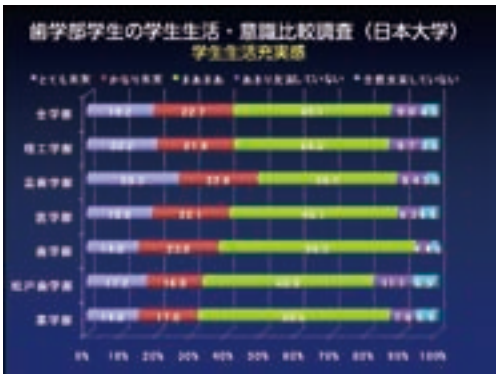
〔9〕



〔10〕



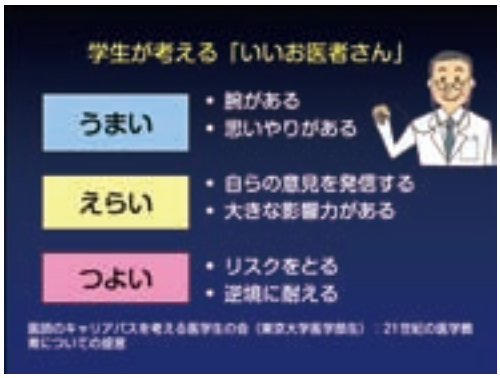
〔11〕



結果です。学生の充実感の強い学部は芸術学部であります。医歯薬学部は30～40%でかなり低い率であります。まあまあという回答が多すぎる感じがいたします。社会認識や自己認識が低いといわれている昨今の学生気質と考えますが、このまあまあ以下の学生さんをその気にさせることは大学人にとって大きな課題であります。外国の学生と比較したい気分になります。〔スライド11〕

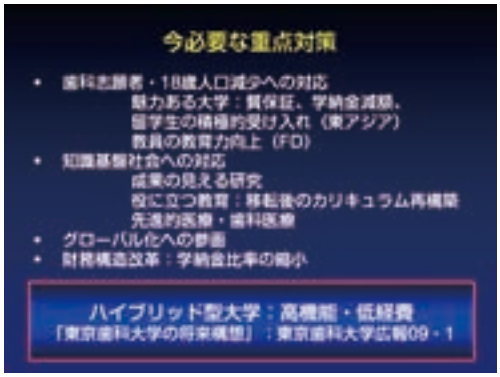
もちろん学生生活に目標をもって積極的に生きている学生も多いわけでして、このスライドはそうしたグループだと推察しますが、自分たちはどのような将来像を描いているのかということで、医学部学生のある会がインターネットに出していたものを紹介いたします。歯学部学生も同様であろうと考えます。医師としての職業人には医学的な力量と人間力を求めております。またこうした結論に至ったのには、彼らが尊敬している現在活躍中の50歳代の医師3名のこれまで歩んできた人生の経緯から表のようにまとめております。この3名の医師は勉学のほかに、学生時代からクラブ活動や趣味、交友関係にも大いに人生の妙味を発見して過ごしていることから、ここで学生は、人間力の涵養のために課外活動も単位に認めてもらいたいとも主張しております。青年の可能性のある未来のために6年間の学部教育で多面的な体験をさせることが重要であり、それは血脇イズムの一環でもあると思っております。〔スライド12〕

〔12〕



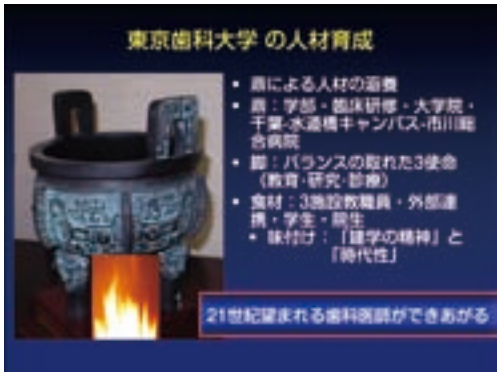
「千里の道も一歩から」というように今ある課題の解決なくして将来はありません。そこで、本学として現在必要な重点対策は歯科志願者減少、これからの「知識基盤社会」への対応、グローバル化への対応をどのような戦略で具体的な策を立て、実行していくべきなのかということであります。要は「若者に魅力ある大学」にすること、また同窓生が「母校を誇りに思える大学」にすることであろうと考えます。そして、そうした学務政策の実施には常に財務が係り合いますので、日本経済の将来に適合させた財務構造に組み直さないとならないと考えています。大学は「知の拠点」ですので診療を含めた知と技をもって学生のみならず再教育における収益、さらには時をみてスケールメリットが得られる学部新設も創立150周年までにはありえないことではないと考えています。しかし、現在は移転と移転後の教育研究体制決定と医療施設計画に実務的に力を注ぐ時と考えています。〔スライド13〕

〔13〕



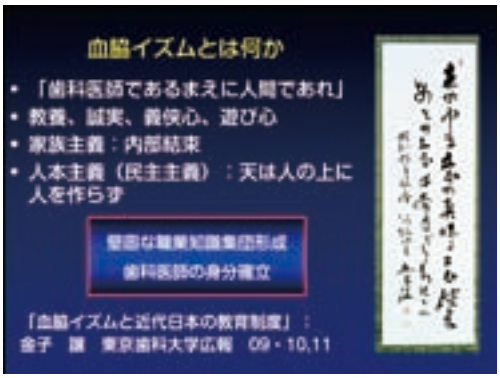
大学あるいは教育の変わることのない目的であります人材育成についての私の考えであります。東京歯科大学は、総合病院を有した歯科大学でありますので、3施設の有機的な連携をもって学部から大学院と一貫性をもった特徴的な人材育成ができると考えます。「人を育てる」ために高山歯科医学院ができました。これらを今日に繋げてきたのは人材以外にありません。建学の精神を持って創造性のある指導者を育成したいと運営しております。〔スライド14〕

〔14〕



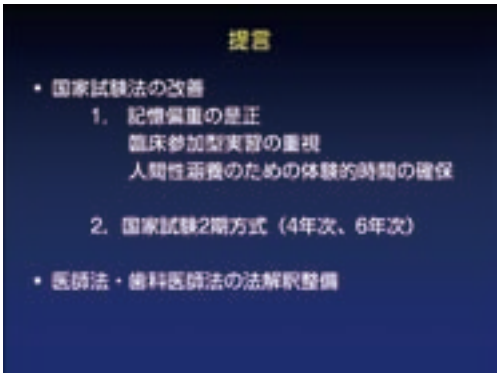
そして、どのような人材育成を目指すかということは、血脇イズムに裏打ちされれば良いと考えます。血脇守之助の考える「人間」とは深淵でありまして、そう単純ではありませんが、教養・本気・誠実・義侠心・遊び心・余裕をバランスよく持った人間と理解しています。伝えられる「血脇イズム」は「人間性の涵養」、「家族主義」、「人本主義」であります。明治時代に新しい職業であった歯科医師の市民権を得るための戦術としてこれらを血脇守之助は用いたと考えます。血脇守之助は明治時代から東京歯科医学専門学校の大学化を目指し、歯科医師の身分確立のために生涯を賭けました。その目標達成のために人間力を持った集団を作り、家族主義という信条でこれらの人々を結束させ、民主主義を旗印に理不尽な国の制度と不条理な市民意識と戦ってきたのですが、この戦いに血脇イズムはきわめて有効であったと感じます。〔スライド15〕

〔15〕



最後に、将来を考えまして2つのことを提言させてもらいます。1つは国家試験のあり方であります。国民の皆様から歯科医師の資質向上に強い要望を受けております。歯科医師としての資質は「知識偏重」であってはなりません。先ほど観ていただいた学生さんが考える良いお医者さんになるためには、現在の試験法は適切とは言いがたいところがあります。そこで私案ですが、4年終了時に前期としての国家試験を行います。これは、その後の2年間を臨床に取り組ませるためでありますので「知識偏重」試験でよいと思います。ここで知的な資質を厳しく判定いたします。そして6年卒業時には、臨床を中心にした判定とし、6年間を人間性の涵養を含めて尊敬されるにたる職業人の卵を作ることが、今必要とされていると考えます。

〔16〕



もう1つは、医師法、歯科医師法を時代に合わせた解釈整備が必要と考えます。高齢社会での歯科は医学的管理が歯科医療でも進展していくに違いありません。既に新しい時代に歯科医療は入ってきています。必要なとき偏狭な法的解釈によって国民が良い歯科医療を受けられないことにならないよう準備が必要であります。〔スライド16〕

〔17〕

最後になりますが、東京歯科大学は、2012年から約4年間で千葉キャンパスを水道橋の地に戻します。東京歯科大学の新しい幕開けの決断は（故）井上 裕前理事長によってなされました。また先生は本日のこの記念行事を心待ちにされておりました。この120年を契機として150周年までの東京歯科大学構想を描くことは決して夢物語ではありません。大学教職員一同高い目標をもって、法人熱田理事長のもと、次の時代を拓いていきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。〔スライド17〕

創立120周年記念祝賀会

司会　前　田　美　咲

次　第

	＜東京歯科大学創立120周年祝祭管弦楽団による演奏＞	
一.開　会　の　辞	東京歯科大学千葉病院長	石　井　拓　男
一.挨　　拶	学校法人東京歯科大学理事長	熱　田　俊之助
	東京歯科大学学長	金　子　　譲
一.祝　　辞		文部科学大臣
	日本歯科医学会	江　藤　一　洋 会長
	社団法人日本私立歯科大学協会	中　原　　泉 会長
一.乾　　杯		三 笠 宮 殿 下
	＜祝宴中＞	
	祝電披露	
	中華口腔医学会からの記念品贈呈	
	ピエール・フォシャール・アカデミー奨学金授与	
一.校　歌　斉　唱	＜東京歯科大学混声合唱部、ピアノ＞	
一.御　礼　言　上	東京歯科大学学長	金　子　　譲
一.閉　会　の　辞	東京歯科大学市川総合病院長	安　藤　暢　敏

記念祝賀会は、三笠宮殿下、同妃殿下のご臨席を仰ぎ、記念講演会に引き続き午後5時より同会場において、式典出席者にさらに同窓会会員等を含めた約800名が指定された円卓に着席して、盛大かつ賑やかに開催された。

祝賀会に先立ち、この日のために特別に編成された東京歯科大学祝祭管弦楽団の演奏が行われた後、三笠宮殿下、同妃殿下がご入場された。石井拓男千葉病院長の開会の辞により祝賀会がはじめられ、続いて熱田俊之助理事長、金子 譲学長より挨拶があり、次に加藤重治文部科学省大臣官房審議官より川端達夫文部科学大臣の祝辞が披露され、ついで江藤一洋日本歯科医学会会長、中原 泉日本私立歯科大学協会会長よりそれぞれ祝辞が述べられた。

祝賀会は三笠宮殿下より乾杯のご発声をいただき、祝宴が始められた。その後、出席された海外姉妹校等の方々の紹介、祝電の披露が行われ、続いて中華口腔医学会からの記念品が石 四箴副会長より金子学長に贈呈され、ついでピエール・フォシャール・アカデミー国際歯学会より今年度の奨学金候補学生に選出された本学第5学年石川宗理君に対して、ピエール・フォシャール・アカデミー日本部会松本圭司会長より奨学金の授与が行われた。

その後、創立120周年を記念して製作された記念DVDの放映を観賞しながら祝賀会は益々の盛り上がりを見せ、校歌斉唱では会場全体に響き渡る大合唱となった。

金子学長による御礼言上の後、最後に安藤暢敏市川総合病院長による閉会の辞により、祝賀会は予定の午後7時に盛会のうちに終了した。

記念年表パネルをご観覧される三笠宮殿下、同妃殿下：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」前ロビー

記念年表パネルをご観覧される三笠宮殿下：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」前ロビー

祝賀会会場へご入場される三笠宮殿下、同妃殿下：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

石井千葉病院長による開会の辞：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

熱田理事長による挨拶：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

金子学長による挨拶：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

川端文部科学大臣の祝辞を代読される加藤文部科学省大臣官房審議官：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

江藤日本歯科医学会会長の祝辞：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

中原日本私立歯科大学協会会長の祝辞：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

三笠宮殿下による乾杯のご発声：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

中華口腔医学会石 四箴副会長より記念品を贈呈される金子学長：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

ピエール・フォシャール・アカデミー日本部会松本会長（左）より奨学金を授与される石川君（右）：平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

祝賀会のために特別に編成された東京歯科大学祝祭管弦楽団による演奏：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

東京歯科大学混声合唱部による校歌斉唱：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

盛大に行われた祝賀会：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

三笠宮殿下、同妃殿下へご臨席の御礼を申し上げる金子学長：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

安藤市川総合病院長による閉式の辞：平成22年５月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」

出席者への記念品

挨　拶

学校法人東京歯科大学
理事長　熱田　俊之助

本日、ここに三笠宮、同妃両殿下のご親臨を仰ぎ、東京歯科大学創立120周年記念祝賀会を開催できますことは、私どものこの上ない光栄であり、慶びであります。また本学に対して日頃格別のご協力ご支援をいただいております内外のご来賓の方々、ならびに全国同窓会、ご父兄および関係各位多数のご臨席を賜り、法人を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。

さて、本学の歴史のなかで大学の宝と言えるものの一つに「高雅学風徹千古」と書かれた扁額がございます。これは野口英世博士から、関東大震災で校舎が壊滅状態にあった本学に対して、たとえ甚大な被害にあっても“高雅で気高い学風は、決して失われることなく、永遠に続くであろう”と恩師の血脇先生を励ますために、はるか遠国より贈られた揮毫であります。

創立120周年の節目に立ち、私どもは、野口博士の思いを改めて胸に刻み、高山先生、血脇先生をはじめとする多くの先達が築かれた歴史と伝統を継承し、東京歯科大学、そして歯科医学、歯科医療の未来に向け、さらなる一歩を邁進してまいりたいと、決意を新たにしているところでございます。

ご来賓ならびに関係各位におかれましては、今後とも、本学への一層のご支援のほどをお願い申し上げ、私の挨拶にかえさせていただきます。それではささやかではございますが、祝宴をお楽しみ頂けると幸甚に存じます。本日は誠にありがとうございました。

平成22年5月22日

挨　拶

東京歯科大学
学長　金子　　譲

三笠宮殿下、同妃殿下のご臨席を仰ぎ、本日、東京歯科大学創立120周年記念祝賀会を開催できますことは、本学にとりましてこの上もない栄誉であります。また、本日ご臨席頂きましたご来賓の方々、ならびに同窓の先生方、ご父兄および関係各位の皆様からは、常日頃より大学へ温かいご支援を賜っておりますことを、深く感謝申し上げますとともに、120周年を迎えた慶びを皆様方と分かち合いたいと思います。

本学の創立120周年記念行事のメインテーマである「継承と発展」の意味するところは、本学の伝統を未来へ継承し、歯科界の先導としてさらなる発展を遂げていく本学の未来像であります。

時代は変われども、大学の本質は、人材育成であり、その責務は有為な人材の育成であります。「歯科医師たる前に人間たれ」という本学の建学の精神に基づいた教育を柱に、希望に満ちた将来展望を描いていくことが重要であると考えております。創立120周年をその契機ととらえ、本学関係者一人一人が創造性を発揮し、熱意と柔軟性を持ちながら希望に満ちた将来展望を描き、グローバルな視点で次の時代へ繋げていきたいと考えております。

ご来賓ならびに関係各位の皆様には、今後ともより一層のご指導とご支援を賜り、東京歯科大学発展のためにご協力頂ければ幸いです。最後になりますが、本日ご臨席を賜りました皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げ、私の挨拶にかえさせて頂きます。

平成22年5月22日

祝　辞

文部科学大臣　川端　達夫

本日ここに、三笠宮同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、東京歯科大学創立120周年記念祝賀会が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

今日の我が国の歯学教育は、1890年（明治23年）に、高山紀齋先生により、我が国最初の歯科医学教育機関として、貴学の前身である「高山歯科医学院」が創立されたことにはじまります。

以来、120年の間、我が国の歯科医学教育は目覚ましい発展を遂げ、今日に至っており、東京歯科大学の歴史が、正に我が国の歯科医学教育の歴史そのものであると言っても過言ではありません。

この間、建学者である血脇守之助先生が説かれた、血脇イズムとも称される「歯科医師たる前に人間たれ」の教えのもと、全人的教育等を目指し、豊かな教養、高い人格を備えた人材を育成され、これまで、約1万5千名の卒業生を社会に輩出され、国内外の歯科医学・歯科医療の分野で中核として活躍しておられますことは、誠に心強い限りであります。

今日の隆盛を迎えられておりますことは、貴大学の充実・発展に尽力された、高山先生をはじめ歴代の理事長、学長、教職員各位のたゆみない御努力と関係各位の熱意あふれる御協力の賜物であると存じ、心より深く敬意を表する次第であります。

近年の歯科医学・歯科医療については、より一層の高度化や国民の多様なニーズを受け止めた改善・充実が求められており、これらの要請に応えて、歯科大学が果たすべき役割は、ますます大きなものとなっております。

東京歯科大学におかれましては、これまで築いてこられた輝かしい伝統と実績を礎とし、優れた教育や特色ある研究の展開、充実した歯科医療の提供に、一層御尽力されますことを心から期待しております。

結びに本日の盛会を祝し、東京歯科大学及び御臨席の皆様の御発展を心より祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

平成22年5月22日

祝　辞

日本歯科医学会
会長　江藤　一洋

東京歯科大学が本日ここに120周年を迎えられましたこと、まことに慶賀にたえません。日本歯科医学会を代表して心よりお慶び申し上げます。

さて、東京歯科大学は明治23年に創立された高山歯科医学院に始まり、その後、高山紀齋先生から血脇守之助先生に引き継がれて、明治40年には専門学校へ昇格され現在の東京歯科大学の発展の歴史が始まります。

血脇守之助先生の目標は東京歯科医学専門学校の大学昇格にありました。大正7年に制定された「大学令」には、大学における学部は、法学、医学、工学、文学、理学、農学、経済学、および商学とする、とあります。大正のこの時期においても富国強兵策は継続されており、医学は兵を戦場にもどし、労働者を職場に復帰させるに必須であるが、歯科医学はこれに当らずとされ、国は歯科医学専門学校の大学昇格を認めなかったわけであります。

しかし血脇先生はこれに落胆することなく、次なる大学昇格に必要な法人化のためにご自身の私財を投げ打って、これに備えておられます。

大正11年、血脇先生は、長期欧米視察に出かけられた折、全米28校からなる歯科大学学長会議と取り決めを行い、東京歯科医学専門学校の卒業生を大学歯学部最終学年に編入させることにより、米国の大学歯学部を卒業した資格を与えることを可能にされております。大学令によって阻まれた大学昇格を、なんとしてでも、いかなる形であれ、成就させたいという先生の熱意と執念が感じ取れます。

同じく大正11年には、鉄筋コンクリート3階建て新校舎が竣工しておりますが、それも束の間、大正12年9月1日新校舎は関東大震災により灰燼に帰すことになり、苦難はさらに続くのでありました。

そして私共が記憶しております威厳と品位をそなえたあの水道橋校舎は、なんと世界恐慌のさなか昭和4年に竣工しておりますことは、まさに驚嘆に値します。この熱烈なる気概あって、昭和21年我が国で最初の歯科大学として東京歯科大学の設立が文部省によって認可されております。幾多の困難苦難をのり越え、東京歯科大学の発展とさらには日本の歯科医師の地位向上を目指す、この不撓不屈の精神こそ血脇守之助先生がお創りになった東京歯科大学の伝統であります。不可能を可能にする、この伝統あればこそ、今回の稲毛から水道橋の再移転も可能であります。

創立120周年の節目に東京歯科大学が次なる100年の栄光を目指し、さらなる飛躍、さらなる発展をされますよう祈念致しまして祝辞とさせて頂きます。

平成22年5月22日

祝　辞

社団法人日本私立歯科大学協会
会長　中原　　泉

東京歯科大学の先生方、創立120周年、おめでとうございます。

さて、私の誕生日は2月12日でございます。お前の誕生日なんかどうでもいいとお思いになられた方もいらっしゃると思いますが、先生方、ちょっと思い出していただきたい。先ほど講演でもお話があり

ましたが、血脇守之助先生が高山歯科医学院を譲り受けて、そして東京歯科医学院に改称されて開院されたのが、明治33年（1900年）2月12日でございました。従いまして、東京歯科医学院の創立記念日は2月12日というふうに聞いております。私は、なにか親しみを感じているわけでございます。

拝見しますと若い先生が沢山いらっしゃいますので、恐らくご存じないと思いますが、明治、大正、昭和の初めの約40年間にわたりまして、東京歯科大学の血脇守之助先生、日本歯科大学の創立者中原市五郎、この両雄が熾烈な争いといいますか、争いといったらちょっと語弊がありますが、熾烈な競争を繰り広げました。この両者が牽引力となって、我が国の歯科界は前半の50年間、たいへんに進展したと、歴史的に評価されております。

当時、日本歯科大学ではクラブの学生は、校長や先生方から、対抗試合に行く時に、他の学校には負けてもいいけれど、東歯にだけは負けるなと。逆に、東京歯科大学でも、他の学校には負けてもいいけど、日歯にだけは負けるなとハッパをかけられました。日歯の学生は東歯に負けると、泣いて悔しがっていたということでございます。

当時、町名をとりまして、水道橋の方は三崎町、飯田橋の方は富士見町と。三崎町と富士見町と、その上に血脇、中原という巨人がいて、長い競争を繰り返したわけでございます、しかし現在、この10年間は、歯科の100年の歴史の中で、東歯と日歯がこれほど友好的な関係にある時代はないと私は感じております。

実は、私の次男坊は、東京歯科大学の大学院の4年生にお世話になっておりまして、来年には学位を頂戴できるということでございます。まあ、人質にとられているといいますか、創立者の中原市五郎が聞いたら烈火の如く怒ったでありましょう。恐らく血脇先生も、なんでそんな奴を入れたんだとお怒りになったと存じますけれども、時代は変わって、現在は学閥の時代ではございません。東京歯科大学は再来年、30年ぶりに東京にお戻りになられるということでございます。隣り村におります私どもは、内心、身震いといいますか、武者震いをしております。第二次の東歯／日歯戦争が始まるんじゃないかというような、不安と興奮を感じております。まあ、学閥の時代は終わりましたので、これからは東京歯科大学、日本歯科大学が協力し合って、我が国の歯科界のために手を携えて参りたいと願っております。どうぞ、先生方よろしくお願い申し上げます。

平成22年5月22日

展示された創立120周年記念年表パネル「東京歯科大学の沿革―継承と発展―」
平成22年5月22日（土）、帝国ホテル東京「孔雀の間」前ロビー

東京歯科大学の沿革－継承と発展－

変遷区分	年号		項目	出来事
黎明期	明治23年	（1890）	髙山歯科医学院創立（芝区伊皿子町）（学院長：髙山紀齋）	第１回帝国議会開会
	明治28年	（1895）	院友会機関誌「歯科医学叢談」創刊	レントゲン、エックス線を発見
	明治30年	（1897）	血脇守之助ほか　官立歯科医学校設立の請願	近代オリンピックアテネにて開催（明29）
			野口清作　髙山歯科医学院の講師となる	
	明治32年	（1899）	髙山紀齋　血脇守之助に学院譲渡を申し出る	私立学校令公布
揺籃期	明治33年	（1900）	髙山歯科医学院を東京歯科医学院（神田小川町）と改称	立憲政友会結成（総裁伊藤博文）
			（学院長：血脇守之助）	
			「歯科医学叢談」を「歯科学報」と改称	
	明治34年	（1901）	東京歯科医学院を神田三崎町に移転	第１回ノーベル賞受賞式
	明治36年	（1903）	髙山紀齋　大日本歯科医会会長に就任	専門学校令公布、ライト兄弟初飛行
	明治37年	（1904）	奥村鶴吉　ペンシルバニア大学２年に編入	日露戦争始まる
	明治39年	（1906）	歯科医師法施行規則制定	医師法・歯科医師法公布
				公立私立歯科医学校指定規則制定
	明治40年	（1907）	東京歯科医学専門学校設置認可（校長：血脇守之助）	
	明治43年	（1910）	遠藤至六郎　満鉄大連病院歯科部主任	
	明治44年	（1911）	野口英世　京都帝国大学医科大学、医学博士の学位記受領	
苦闘期	大正 2年	（1913）	花澤 鼎　ストラスブルグ大学留学のため渡欧	第一次世界大戦始まる（大３）
	大正 4年	（1915）	野口英世　本校訪問	
	大正 6年	（1917）	宇垣錦三　ペンシルバニア大学留学	ソビエト政府成立（ロシア10月革命）
	大正 7年	（1918）	堀江銈一　シカゴデンタルカレッジ留学	大学令公布
				慶應義塾医学部（本科）開講（大８）
	大正 9年	（1920）	血脇守之助　資産の寄付により財団法人設立認可	国際連盟発足
	大正11年	（1922）	血脇守之助　日本の歯科界代表として欧米視察調査 米国で野口英世と再会	
	大正12年	（1923）	花澤 鼎　慶應義塾大学医学部にて歯科医として医学博士第１号	
			本学関東大震災により被災	
	大正13年	（1924）	奥村鶴吉　慈恵会医科大学にて医学博士第２号	
			野口英世博士より「高雅学風徹千古」の扁額贈られる	
	大正14年	（1925）	血脇守之助　ロヨラ大学より名誉法学博士（L.L.D.）の学位記受領	ラジオ放送開始
	大正15年	（1926）	血脇守之助　日本歯科医師会会長（初代）に就任	
	昭和 2年	（1927）	校旗・校歌発表式典挙行	
	昭和 3年	（1928）	野口英世　黄熱病によりアクラにて客死（享年51歳）	東京高等歯科医学校（現：東京医科歯科大学）設立
	昭和 4年	（1929）	水道橋校舎落成	世界恐慌始まる
	昭和 8年	（1933）	髙山紀齋逝去（享年82歳）	満州事変（昭６）
	昭和15年	（1940）	東京歯科大学創立50周年記念式典挙行	太平洋戦争始まる（昭16）
	昭和18年	（1943）	奥村鶴吉　第２代校長に就任	
	昭和20年	（1945）	東京大空襲、東京歯科医学専門学校健在なり	
			秋田分校、韮山分校へ学校疎開	広島、長崎原爆投下　　終戦
成長期	昭和21年	（1946）	東京歯科大学（旧制）設置認可（初代学長：奥村鶴吉）	歯科教育審議会発足
			東京歯科大学予科開校（初代予科長：花澤 鼎）	教育刷新委員会設置（文部省）
			「臨床歯科学報」発刊（～昭和24年６月）	日本国憲法公布
			東京歯科大学市川病院開院（初代病院長：花澤 鼎）	
	昭和22年	（1947）	血脇守之助逝去（享年77歳）	教育基本法・学校教育法公布、大学基準協会設立、第１回歯科医師国家試験
				新歯科医師法公布（昭23）、歯科衛生士法公布（昭23）
	昭和24年	（1949）	東京歯科大学病院開設認可（初代病院長：花澤 鼎）	
			東京歯科大学歯科衛生士学校開校（初代校長：杉山不二）	
	昭和25年	（1950）	花澤 鼎逝去（享年67歳）	私立学校法制定、朝鮮戦争始まる
	昭和27年	（1952）	学校教育法により新制東京歯科大学認可（初代学長：奥村鶴吉）	平和条約・日米安全保障条約調印（昭26）
	昭和28年	（1953）	東京歯科大学第１回卒業証書授与式	NHKテレビ放送開始
	昭和30年	（1955）	東京歯科大学進学課程設置認可	
	昭和32年	（1957）	東京歯科大学学会改組（学会として正式に発足）	
	昭和33年	（1958）	東京歯科大学大学院開設（初代大学院研究科長：渡辺 悌）	
			水道橋校舎新館落成・大学院開設記念式典挙行	東京タワー完成
	昭和34年	（1959）	奥村鶴吉逝去（享年77歳）	皇太子と美智子妃ご成婚パレード
発展期	昭和35年	（1960）	「The Bulletin of Tokyo Dental College」（欧文紀要）創刊	国民皆保険制度（昭36）
	昭和37年	（1962）	大学院歯学研究科として初の歯学博士授与式（11名）	堀江謙一、日本人で初めて小型ヨットで太平洋横断成功
	昭和39年	（1964）	第18回東京オリンピックに医療依託を受ける	東京オリンピック開会
	昭和42年	（1967）	東京歯科大学市川病院　総合病院として認可	米アポロ11号月面着陸成功（昭44）
	昭和45年	（1970）	血脇守之助生誕100年記念式典	日本万国博覧会（大阪）
	昭和50年	（1975）	東京歯科大学稲毛歯科診療所開所	オイルショック（昭48）
	昭和51年	（1976）	東京歯科大学歯科衛生士専門学校と改称	
	昭和53年	（1978）	校旗・校歌制定50周年記念式典	イラン・イラク戦争始まる（昭55）
	昭和56年	（1981）	東京歯科大学千葉校舎開校・東京歯科大学千葉病院開院	日航機御巣鷹山墜落事故（昭60）
			東京歯科大学病院を東京歯科大学水道橋病院と改称	ソ連チェルノブイリ原子力発電所事故（昭61）
	昭和62年	（1987）	東京歯科大学市川病院を東京歯科大学市川総合病院と改称	
	平成 元年	（1989）	東京歯科大学歯科衛生士専門学校千葉校開校	ベルリンの壁崩壊

	平成 2年	(1990)	東京歯科大学水道橋病院（TDC ビル）定礎・落成 東京歯科大学水道橋病院開院 東京歯科大学創立 100 周年記念式典挙行（天皇皇后両陛下ご台臨）	
競争期	平成 3年	(1991)	東京歯科大学御殿町グラウンド落成	大学設置基準の大綱化、ソビエト連邦消滅
	平成 4年	(1992)	東京歯科大学市川総合病院　新病院定礎・竣工・開院	
	平成 6年	(1994)	東京歯科大学市川総合病院　宿舎・保育所・附属棟竣工	
	平成 7年	(1995)	東京歯科大学同窓会創立 100 周年記念式典挙行	阪神・淡路大震災発生、地下鉄サリン事件
	平成 8年	(1996)	文部省「私立大学ハイテクリサーチセンター整備事業」対象施設 東京歯科大学口腔科学研究センター開所式挙行　平成 8 年第 1 プロジェクト研究から平成 22 年第 8 プロジェクト研究まで継続採択 東京歯科大学市川総合病院　創立 50 周年記念式典挙行	冬季オリンピック長野大会
	平成11年	(1999)	東京歯科大学歯科衛生士専門学校　創立 50 周年記念式典挙行	
	平成12年	(2000)	東京歯科大学口腔科学研究センター脳科学研究施設開設	
	平成13年	(2001)	東京歯科大学市川総合病院　角膜センター・アイバンク竣工	米国、同時多発テロ発生
	平成14年	(2002)	東京歯科大学市川総合病院　リプロダクションセンター・放射線棟開設	
	平成16年	(2004)	東京歯科大学歯科衛生士専門学校　3 年制教育開始	
	平成17年	(2005)	文部科学省教育改革支援事業「特色ある大学教育支援プログラム」「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」採択 歯科医学教育開発センター開設	
	平成18年	(2006)	東京歯科大学市川総合病院東京歯科大学口腔がんセンター開設	歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書（厚労省）（平 19）
	平成20年	(2008)	文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」参加により東京歯科大学大学院口腔がん専門医養成コースを新設 大学法人　千葉キャンパスの水道橋移転決定 次世代学術コンテンツ基盤共同構築の委託事業採択により機関リポジトリ「IRUCAA@TDC」を正式公開	
	平成21年	(2009)	文部科学省教育改革支援事業「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に採択	歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議　第 1 次報告（文科省）
	平成22年	(2010)	東京歯科大学創立 120 周年記念式典挙行	
	平成24年	(2012)	東京歯科大学　さいかち坂校舎（仮称）に新入生を迎える（予定）	

創立120周年記念学術講演会・第289回東京歯科大学学会

本学創立120周年記念事業の一環として、『創立120周年記念学術講演会・第289回東京歯科大学学会』が、平成22年5月8日（土）と5月9日（日）の2日間、東京国際フォーラムで開催された。継承と発展のテーマにもとづき行なわれる旨の薬師寺 仁副学長の挨拶によって開会された。

この記念学術講演会は、下野正基委員長のもとプログラムが組まれ、企画された。メイン会場のホールCでは、初日の5月8日（土）に口腔科学研究センターシンポジウムにはじまり、基調講演、特別講演、国際シンポジウムが、2日目の5月9日（日）は、国内シンポジウム、ウィーン少年合唱団コンサート、市民公開フォーラムなどが催された。

ランチョンセミナーはG棟409会議室と510会議室を使って、2日間各2題計4題が企画された。ポスターセッションはホールB5が使用され、計111の演題が展示された。企業展示は同じくホールB5で、42社が両日にわたって行なわれた。メイン会場として使用したホールCの2階ロビーには、参加者に「本学120年の歩み」を知って頂くために、17枚のパネルにまとめた年表形式の展示を行った。

参加者数は、5月8日（土）1,400名、5月9日（日）1,822名、2日間合計3,222名である。ウィーン少年合唱団コンサートの観客は1,215名を数えた。5月9日（日）、午後5時、盛会裏のうちに終了する旨の井出吉信副学長の挨拶により閉会された。

【口腔科学研究センターシンポジウム】

本学は、平成8年度に文部科学省の『私立大学ハイテク・リサーチ・センター（HRC）整備事業』の対象施設に歯科大学として初めて選定され、この整備事業の中核をなす研究拠点として口腔科学研究センターが開設された。HRC研究はこれまでに6つの研究プロジェクトが行われ、現在7番目のHRC第7プロジェクト「口腔アンチエイジングによる生体制御」（平成18年度～22年度）が遂行中である。まさに「継承と発展」に相応しい。アンチエイジングは、病的な老化を積極的に予防するポジティブ医療であり、究極の予防医学と考えられる。HRC7は口腔アンチエイジングの考え方を世界に発信するとともに、口腔疾患の予防を含

めた歯科臨床との架け橋を築きながら、世界をリードする歯科医学の若手研究者を育成することを目的としている。

本シンポジウムでは、阿部伸一准教授（筋幹細胞分化過程に必須なgrowth factorとnegative regulatorの相互作用）、渋川義宏准教授（加齢に伴う顎関節の形態,機能維持に関わる遺伝子発現の解析）、松坂賢一准教授（口腔諸組織の加齢変化）、石原和幸教授（加齢による口腔細菌叢の変化とその制御）、加藤靖浩非常勤講師（細胞外環境制御によるアンチエイジング機構の解明）の諸先生に研究成果を報告して頂き、活発な討論に繋げることができた。

【基調講演】

午前11時より、「未来の歯科医療としての歯科再生医療」と題する基調講演が行なわれた。講師に辻 孝教授（東京理科大学総合研究機構・本学客員教授）をお迎えし、座長を鄭　翰聖教授（延世大学校歯科大学・本学客員教授）が務められた。辻先生の研究グループは2007年に、正常な歯の構造を有する再生歯をつくることのできる「器官原基法」という細胞操作技術を開発している。この方法を用いて辻先生は、ネズミを用いた実験的再生歯が正常歯と同等の硬度をもつこと、対合歯と咬合すること、歯根膜を介して骨と連結すること、侵害刺激を中枢に伝達しうる神経線維を再生することなどの研究成果を示された。

講演は論理的で、わかりやすく、歯科医療に携わる者に大いなる知的好奇心を抱かせるもので、未来の再生歯科医療につながる素晴らしい講演であった。講演内容の一部は、すでに米国科学アカデミー紀要（PNAS 106:13475-13480, 2009）に発表されており、国際的にも高い評価をうけている。

【特別講演】

慶應義塾大学医学部生理学教室の岡野栄之教授による「iPS細胞を用いた再生医学・疾患研究」と題した特別講演が行われた。岡野教授は京都大学の山中伸弥教授と並び称される日本の再生医学研究のリーダーで、講演では体性幹細胞、ES細胞、iPS細胞についての基本的な説明に始まり、特にiPS細胞を臨床応用するための問題点として、腫瘍化の問題をクリアーするために進めてきた研究成果を話された。さらに、特に先生のご専門で、多くの生命科学の研究成果を取り込み進めてきた脊髄損傷、網膜変性症などの難治性精神・神経疾患の治療への応用について、最先端の研究成果を発表された。

岡野教授はグローバルCOEプログラムの拠点リーダーとして活躍されてきており、本講演はiPS細胞を用いた再生医学への臨床応用が現実的になってきていることを感じさせられた。

【国際シンポジウム】

osseointegrated implantが日本に導入され40年を迎えたことを踏まえ、「40年を迎えたインプラントの光と影」と題した国際シンポジウムを企画した。井上 孝教授、矢島安朝教授の座長のもと、インプラント表面形状研究の第一人者、オランダ、ナイメーヘン大学教授、Jonh A.Yansen先生に「骨結合に関するインプラント表面の影響」を、また、インプラント臨床を長年手がけられてきたスイス、ベルン大学教授、Regina Mericske-Stern先生には「高齢者へのインプラント治療」と題するご講演を頂いた。また、千代田区で開業され、本学インプラント科臨床教授もお務め頂いている武田孝之先生には、「長期経過例から考えるこれからのインプラント治療」としてのご講演を頂いた。参加者からも、インプラントの技術的側面にのみ興味が示されてきたインプラント治療に対し警鐘が鳴らされた。

シンポジウムのまとめでは、光の部分として、多くの基礎ならびに臨床研究が実行され、素晴らしい治療実績が数多く報告された。影の部分では、人々のQOLは著しく向上させたインプラントではあるが、加齢変化、老化、病気などとの関係を軽視してきたことは否めず、高齢化社会を迎えた今、その点を加味しないでインプラントが成り立つはずがない。今後、インプラント治療は、医学的根拠を持つ視点から、さらに真摯に取り組む必要があると結論づけられた。

【国内シンポジウム】

歯科医療の大きな目標は、疾病を治すだけではなく、ヒトのQOLの向上という大きな目標がある。国内シンポジウムは、歯科の観点からみた国民のQOLの向上を念頭に置いて、「食に関わる口腔機能」を企画した。講演は東北大学大学院歯学研究科の笹野高嗣教授に、「味覚とくにうま味感覚の重要性について」、日本大学生物資源科学部の杉谷博士教授に「唾液腺からの水とタンパク

質の分泌の仕組み」、東京都神経科学総合研究所の川野 仁先生に「脳の摂食調節機構とその異常」、そして本学の澁川義幸講師に「食・テクスチャーの神経基盤:脳における口腔内体性感覚発現」をお願いした。

会場からも基礎や臨床の観点から、素晴らしい質問が数多く出され、有意義なディスカッションが繰り広げられ、成功裏に終了することができた。

【ウィーン少年合唱団コンサート】

2日目の5月9日（日）午後1時より、『ウィーン少年合唱団コンサート』が開催された。チケットは、一般販売の前に、学内および同窓会会員を対象とした先行販売が行われ、多くの本学教職員および家族、同窓会会員の来場があった。コンサートは、来日した25名の少年がケレム・ゼツェンの指揮のもとに、21曲の世界の名曲を歌い上げた。スタンダード曲から、日本の名曲『浜千鳥』、SMAPのヒット曲『世界に一つだけの花』といった日本人にもなじみの深い曲を交えて、老若男女が楽しめる構成であった。

ウィーン少年合唱団の沿革は、今から512年前の1498年に神聖ローマ帝国皇帝マクシミリアンⅠ世が、ウィーンの宮廷礼拝堂のための管弦楽団と聖歌隊を創設させたことに遡る。このときの変声期前の少年による聖歌隊がウィーン少年合唱団の原点とされている。ウィーンからやってきた少年たちの美しい歌声は、聴衆の心を深く魅了した。

【市民公開フォーラム】

創立120周年記念学術講演会の市民公開フォーラムとして座長、市川総合病院　武井 泉教授と歯周病学講座　山田 了教授による「本当に恐ろしい糖尿病!歯周病が糖尿病を狙ってる」が開催された。はじめに、医科の立場から慶應義塾大学医学部　松岡健平客員教授より糖尿病の発症のメカニズムおよびメタボリックシンドロームとの係わりを、これをうけて歯科の立場から広島大学健康増進歯学分野の西村英紀教授より糖尿病の患者が歯周病になると歯の寿命が短くなるだけではなく、体の寿命も短くなる危険性とその予防法のお話をしていただいた。コメンテーターのインドネシア元大統領夫人であるデヴィ・スカルノ夫人は諸外国における口腔の健康に対する価値観について自身の体験とともに話された。

今回の公開フォーラムを通して会場の市民の方々には、糖尿病の恐ろしさとともに糖尿病の予防にいかに歯周病の治療と予防が重要であるかを理解していただけた有意義なセッションであった。

【ランチョンセミナー】

5月8、9日に各2題計4題のランチョンセミナーが企画され、一部の会場では座席不足で立ち見が出るほど大好評であった。

①高柳篤史先生は「歯みがきのソムリエを目指して－行動科学に基づいたブラッシング用具の選択と使い方－」と題して、歯科専門家は口腔ケア用品の特徴に精通し、目前の患者さんの口腔内状況やセルフ・ケアの様子などを総合的に判断し、個々の患者さんとマリアージュする口腔ケア用品選択の重要性を話された。

②秋本尚武先生は「明日からの臨床を変える接着修復」と題して、う蝕に罹患した歯質の状態を考慮しながら歯質を最大限に保存するMinimal Invasive Dentistryを基本とした接着治療の臨床例を多数紹介された。

③関根秀志先生は「インプラントの選択について」と題して、適応の拡大に伴って失敗例も生じており、インプラント治療の適用のために押さえておくべき注意点を話された。

④篠木 毅先生は「歯科用レーザーの変遷 －レーザーは日々の臨床をどのように変えるか－」と題して、歯科用レーザーを効率よく安全に使用するために症例に応じたレーザー使用法について解説された。

【ポスターセッション】

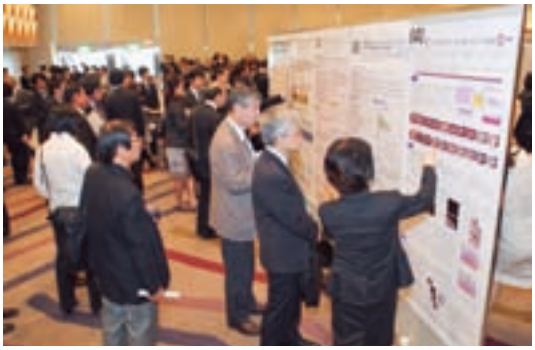
ポスターセッションでは、基礎及び臨床の講座、研究室から83題（市川総合病院から25題、水道橋病院からの18題を含む）、口腔科学研究センターからは17題、同窓から4題、姉妹校から3題の計107題の広範な領域に渡った発表がなされ、セクションごとに活発な討論が行われた。これに加え、学生からは4題の英語ポスター発表が行われた。これに対し、国際渉外部の主催によるposter presentationのcompetitionが行われ、参加4学生に賞が与えられた。

【企業展示】

歯科医療メーカーから出版社に至るまで42企業の出展により行われた。多くの来場者の方々にも大変好評で、各企業のブースをひとつひとつ見て回り、担当者の説明にも熱心に耳を傾けていた。

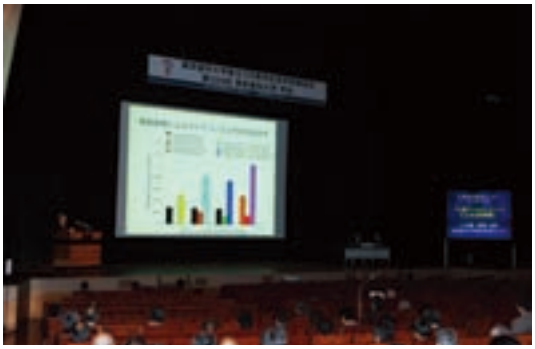
受付風景：平成22年5月８日（土）、東京国際フォーラム ホールC1階

ランチョンセミナー風景：平成22年5月８日（土）、東京国際フォーラム ホールG棟510会議室



ポスター展示風景：平成22年5月８日（土）、東京国際フォーラム ホールB5

シンポジウムにおいて質疑する金子 譲学長：平成22年5月８日（土）、東京国際フォーラム ホールC



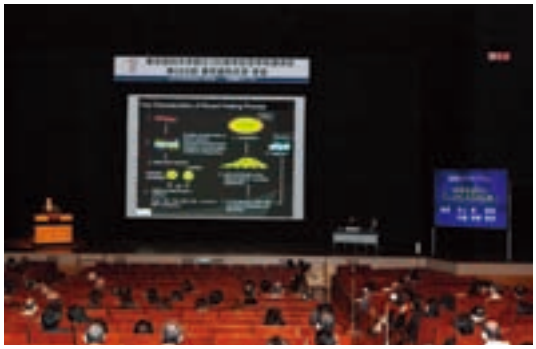
口腔科学研究センターシンポジウム：平成22年5月８日（土）、東京国際フォーラム ホールC

会場風景：平成22年5月８日（土）、東京国際フォーラム ホールC

基調講演演者 東京理科大学総合研究機構 辻 孝教授：平成22年5月８日（土）、東京国際フォーラム ホールC

特別講演演者 慶應義塾大学 医学部 岡野栄之教授：平成22年5月８日（土）、東京国際フォーラム ホールC

特別講演演者 慶應義塾大学 岡野教授に感謝状を贈呈する金子学長：平成22年5月8日（土）、東京国際フォーラム ホールC



国際シンポジウム：平成22年5月８日（土）、東京国際フォーラム ホールC

国際シンポジウムで講演されたProf. John A Jansen（左）、Prof. Regina Mericske-Stern（中）、武田孝之臨床教授（右）：平成22年5月8日（土）、東京国際フォーラム

国内シンポジウムで講演される東北大学大学院歯学研究科　笹野高嗣教授：平成22年5月9日（日）、東京国際フォーラム ホールC

ウィーン少年合唱団コンサート：平成22年5月9日（日）、東京国際フォーラム ホールC

企業展示：平成22年5月9日（日）、東京国際フォーラム ホールB5

市民公開フォーラムで講演される慶應義塾大学医学部松岡健平客員教授：平成22年5月9日（日）、東京国際フォーラム ホールC

展示された創立120周年記念年表：平成22年5月8日（土）～9日（日）、東京国際フォーラム ホールC2階ロビー

創立120周年記念姉妹校交流会議

本学は1977年に延世大学校歯科大学（韓国）と姉妹校関係を持ったことを緒として、これまで6か国8校の歯学部との間に姉妹校協定を締結し、さらに2か国3校の歯学部と友好関係を持ち、留学生の交換、教員の派遣、学生の訪問等の人的交流や、国際シンポジウムの開催といった学術的交流を深めてきた。

今般、東京歯科大学創立120周年記念式典が開催されるにあたり、熱田俊之助理事長と金子 譲学長はこれら姉妹校・友好校から各2名の代表者を式典に招待し、これを受けて来日した9校（カロリンスカ医科大学歯学部およびテキサス大学ヒューストン校歯学部は欠席）の代表者らと本学関係者が一堂に会して、式典に先立つ5月21日（金）に東京歯科大学姉妹校会議2010が千葉校舎特別会議室において開催された。

会議は午後1時より開会し、金子学長による開会の挨拶の後、井上 孝国際渉外部長の進行のもと、最初に東京歯科大学における国際交流の取組みが紹介された。

引き続いて、9校の代表が各校の紹介と国際交流の現況についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、留学生受け入れ条件や学部生の交流の課題、各国の歯科医師養成カリキュラムや外国人の臨床診療資格の差異など、幅広い問題点について熱心な意見交換が行われた。

4時間にわたる会議は午後5時に終了し、柳澤孝彰大学院研究科長による閉会の辞の後、血脇守之助先生の胸像前において出席者一同が記念写真を撮影した。その後、ホテルスプリングス幕張に会場を移して懇親会が開催され、各校の代表者らは国の隔たり、言葉の壁を忘れて大いに交歓し、姉妹校・友好校間の結束を深めた。

【姉妹校・友好校出席者】（発表順）北京大学口腔医学院（中国）李 鉄軍 副院長;鄭州大学口腔医学院　姜 国城 名誉院長、曹 選平院長;マヒドン大学歯学部（タイ）Pornrachanee Sawaengkit 副学部長、Sroisiri Thaweboon 准教授;チェンマイ大学歯学部（タイ）Karune Verochana 副学部長;モスクワ国立医科歯科大学（ロシア）Oleg Yanushevich 総長;第四軍医大学口腔医学院（中国）陳 吉華 副学長、王 小競 教授;台北医科大学口腔医学院（台湾）蘇 慶華副校長、林 哲堂院長;フロリダ大学歯学部（アメリカ）Kenneth Anusavice 副学部長;延世大学校歯科大学（韓国）鄭 文圭学長、徐 廷澤 副学長

【陪席者】同済大学児童口腔医学研究所 石 四箴所長、董 宏偉 講師;中国人民解放軍306病院牛 忠英副院長、李 彦先生;台湾東京歯科大学同窓会 林 崇民 会長、蔡 鵬飛先生

姉妹校会議終了後の記念撮影:平成22年5月21日（金）、千葉校舎管理棟2階 血脇守之助先生胸像前

■平成 22 年度東京歯科大学入学式挙行

平成22年4月5日（月）午後1時より、東京歯科大学入学式が行われた。式には、熱田俊之助理事長、金子 譲学長以下法人役員、大学役職者、教職員、父兄会及び同窓会役員、さらに新入生保護者が多数臨席する中、千葉校舎講堂において厳粛に挙行された。

はじめに、本学管弦楽部と混声合唱部の現役部員及びOBによる校歌演奏・合唱に続いて佐藤 亨学生部長の開式の辞で始まり、国歌斉唱後、小田 豊教務部長が新入生128名と第2学年編入者10名を一人一人呼名した。

次いで金子学長から訓辞、熱田理事長から祝辞が述べられた。新入生代表の中川結理さんが凛とした声で宣誓し、小田教務部長から新入生代表の小崎芳彦君のスーツ左襟に校章が着装された。最後は出席者全員で校歌を斉唱し、滞りなく入学式を終了した。

入学式終了後、小田教務部長から式に参列したご来賓及び教員の紹介が行われた。

その後、新入生及び編入者は、学年・クラス毎に分かれ、クラス主任、副主任と対面した後、自己紹介等が行われ新しい学生生活の第一歩を踏み出した。

なお、当日の午前11時より新入生の保護者を対象とした学内施設見学を実施しており、臨床基礎実習室、保存科、口腔インプラント科診察室等の施設を見て回った。ご子弟の教育環境と学生生活の一端に触れる数少ない機会ということもあり、毎年多くの保護者の参加を頂いている。

小田教務部長より徽章を着装される新入生:平成22年4月5日（月）、千葉校舎講堂

凛とした声で宣誓をする新入生代表:平成22年4月5日（月）、千葉校舎講堂

訓辞を述べる金子学長:平成22年4月5日（月）、千葉校舎講堂

緊張した面持ちで校歌を斉唱する新入生:平成22年4月5日（月）、千葉校舎講堂

祝辞を述べる熱田理事長:平成22年4月5日（月）、千葉校舎講堂

訓　辞

東京歯科大学
学長　金子　　譲

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

今年は本学の創立120周年にあたりますので、皆さんは記念すべき年の新入生となります。この5月には記念式典と祝賀会、また2日間にわたっての学術大会では市民講座も行いますので歯科医学をまだ学んでない新入生の皆さんも参加すると良いと思います。

本学が創立されたのは1890年（明治23年）で、日本が近代化に向かって法律を整備し社会制度を変えていたときです。明治23年とは国会が初めて開催された時期でもあります。

現在では、歯科医学は生命科学の1分野として確立しており、私たちはその研究成果を、診療や予防行為として医療に導入することで、人間の健康のために貢献しております。また、私たちは現在の研究・診療を後継者に繋げ、その後継者が新しい研究や医療を創造してくれるのを願って、皆さんのような歯学部学生に教育しております。皆さんが入学した歯科大学というのは、このように教育、研究、診療を行い、これをもって社会貢献することを使命としています。

ところが、120年前の明治中期では、歯科という分野が市民のみならず明治政府・行政にも十分理解されておりませんでした。専門教育をする学校らしい歯科医学院は本学の前身である高山歯科医学院が初めてでしたので、このため本学の先達が行ってきた努力は並大抵ではありませんでした。

現在、わが国の人口は子供が少なく、高齢者が多い構造になっていますが、労働力の低下したこの構造は今後さらには進展致します。しかも2006年から減少に転じており、2050年には約30%減となります。従いまして、日本の政治はこうした人口構造とより進行するグローバル化に、21世紀の日本社会を適合させるために暗中模索をしております。混沌と不透明さという現状は、このような社会の変革期の現象と思われます。皆さんはこのような時代の若者ですので、歯科医療の面だけでなく社会の指導者として日本の将来を拓いてもらいたいと願っています。

皆さんが歯科医師として働き盛りになっているときは21世紀もまさに中期に向かっているときで、現在の科学進歩から考えますと再生医療や遺伝子治療などの今始まり出したことは既に定着し、さらに全く新しい概念の診断・治療・予防が芽生えていることと想像致します。これらの変化に対応するためには、常にその時々の皆さんの力が土台となりますので、皆さんの生涯から教育研修という言葉は消えるときはありません。つまり、皆さんは歯科医師としての仕事が楽しくなくては、自らが求めて教育研修をしなくなりますので、知的好奇心を学生の間に身につけるようにしてください。

また、皆さんの仕事は、患者さんがあって初めて成り立つ訳ですから、医学医療とはまた人間学でもあります。本学建学者の血脇守之助先生は古くに「歯科医師である前に人間であれ」という教育理念を実践されていましたが、今日でもそれは変わることのない本学の教育理念となっています。専門的な知識・技術とともに患者さんやその家族に思いが至る人間性を持つことが欠かせない訳ですから、これからの皆さんの学生生活は「人間性の涵養」「勉学の習慣」そして「知的好奇心」、この3点を育むための6年間だと今しっかりと頭に入れてください。人間は得た知識や技術をさらに発展させようとする本能的な性質がありますので、ここから工夫や研究などといった「創造」の世界が広がり、これは無限であります。この「クリエイト創造」が夢物語の「想像イマジネーション」に終わらせることなく、現実化させるためには皆さんがこれから学ぶ理論やテクニックをしっかりと身に着けておくことによって成し遂げられると考えます。

私たち教育者は、皆さんが歯科医師として患者さんへの治療だけでなく、研究という新しいことを発見することに興味をもつ人材育成にも力を注いでおります。

さて、皆さんがこれから本学にあって、大事なことを述べておきます。

1. 在学中の試験には合格すること。合格するためには授業に出席すること。学生の成績と出席率は比例しております。
2. 本学の教育方針を理解し、本学の教育環境を十分活用してください。これらは皆さんに大きなインパクトを与えられると自負しております。
3. クラブ活動に積極的に参加するとともに、本学の様々な事業に参加することが楽しくなるような自己を作り上げてください。

以上のことは皆さんの自己確立と社会認識の確立のための方策として基本になることだと考えています。

21世紀グローバルな世界にあって、皆さんが指導性をもって活動できるように成長してくれることを念じて東京歯科大学の教員と職員は常に一体になっております。皆さんと一緒になって次の東京歯科大学を作っていきましょう。本学は本キャンパスでの教育を2年後の平成24年度から順次水道橋に移していきます。従いまして新入生の皆さんは水道橋でも学生生活を送ることになる計画になっております。

これからの皆さんの辛くとも楽しい学生生活を祈念すると共に、保護者の皆様にお祝いを申し上げて訓辞と致します。

祝　辞

学校法人東京歯科大学
理事長　熱田　俊之助

桜花爛漫、新春のこの佳き日に、難関を突破し、入学を許可された新入生の皆さん、並びに編入生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。

大学進学を目指し、重ねてこられた皆さんの努力が、ここに稔ったのであります。入学を心よりお祝い申しあげますとともに、ご健闘に深く敬意を表します。また、保護者の皆様、手塩にかけて育てられたお子様のご入学、本当におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

本学は明治23年に高山紀齋先生による高山歯科医学院の創設以来、本年で創立120周年を迎えます。建学者である血脇守之助先生は「歯科医師である前に人間であれ」という人間教育を重視した「血脇イズム」を唱え、世界的な細菌学者・野口英世博士をはじめ、多くの優秀な人材を輩出しました。東京歯科大学を措いて日本の歯科医学を語ることはできません。本年は、これまで本学が歯科界のリーダーとして培ってきた伝統や実績を広く公開し、後世に継承していくことを大きな使命と考え、「継承と発展」をメインテーマとした創立記念事業を開催してまいります。この記念すべき年に入学される皆さんは、120年の伝統を承継し、世界に冠たる東京歯科大学を支え、更に素晴らしい大学に育てていって頂きたいと思います。

これからの6年間は、皆さんの人生の中でも最も光輝く、実り多い時期になろうと思います。青春を十分謳歌するとともに、是非多くの生涯の友と出会っていただきたいと願っております。まちがいなく、それは、皆さんの生涯を支える大きな財産になります。こころと身体の健康を大切にして、学生生活を思い切り楽しみ、そして学問に勤しんでくださることを期待しております。

これからの皆さんの揚々たる未来の中で、本学で過ごされる一日一日を大切に、学生生活を送られて、魅力溢れる人間となられるように、そして一層大きく成長されることを祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

宣　誓

新入生代表
中川　結理

本日ここに入学式を迎え、我々一同感激と希望に満ちあふれております。只今は、学長先生よりご懇篤なるご訓辞を賜り、伝統ある本学の誇りを胸に刻み、諸先生はじめ先輩の方のご指導の下に勉学に励み、人格の陶冶に努め、学生の本分を尽くす事を誓います。

■准教授就任のご挨拶

有床義歯補綴学講座

上　田　貴　之

この度、教授会のご推挙により、平成22年4月1日付けをもちまして有床義歯補綴学講座准教授を拝命致しました。身に余る光栄であると同時に、伝統ある東京歯科大学補綴学教室の一端を担う有床義歯補綴学講座の准教授という重責に身の引き締まる思いでございます。

私は平成11年に東京歯科大学を卒業後、平成15年に東京歯科大学大学院を修了し、当時の歯科補綴学第一講座の助手として採用されました。その後も有床義歯補綴学講座助手、同講師として櫻井 薫主任教授のご指導の下に診療、教育、研究および社会貢献に従事してまいりました。また、平成19年11月より平成21年6月まで学命によりスイス連邦・ベルン大学補綴科へ留学させていただきました。現在は、有床義歯補綴学講座幹事、千葉病院補綴科副医局長、第6学年副主任なども担当させていただいております。

有床義歯補綴学講座は、主に総義歯学、局部義歯学、老年歯科医学の教育を担当しており、その範囲は多岐にわたり、今後もさらに増加するものと思われます。大学の水道橋移転を有床義歯補綴学の教育改革にとっても好機ととらえ、学生教育や大学院生の教育の効率化、すなわち現在よりも少ない人数で現在よりも内容の濃い教育体制を構築できるよう努力する所存であります。

120周年を迎えた東京歯科大学が次なる一歩を踏み出す栄えあるこの時に、甚だ微力ではございますが、少しでもお役に立てるよう教育・研究・診療および社会貢献に努力してまいります。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

社会歯科学研究室

平　田　創一郎

この度、教授会よりご推挙を賜りまして、平成22年4月1日付をもって社会歯科学研究室准教授を拝命いたしました。このような大役を仰せつかるには、まことに微力でございますが、教授をはじめ教職員の皆様方、本学同窓の先生方のご助言、ご協力をあおぎ、教育・研究に邁進してゆく決意でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、私は、平成7年大阪大学歯学部を卒業後、同大学大学院歯学研究科に進学し、顎口腔機能治療部に入局いたしました。大学院と同大学歯学部附属病院勤務の7年ほど、構音障害・摂食嚥下障害の臨床と研究を行っておりました。その後、平成14年に厚生労働省に入省し、医政局歯科保健課で歯科医師臨床研修専門官として、歯科医師臨床研修必修化の制度作りを4年間担当いたしました。この期間に教育を志し、平成18年4月より当研究室に赴任いたしまして現在に至っております。

社会歯科学の領域は、平成20年にはその重要性と政府の取組方針について国会質問がなされ、また、平成22年の歯科医師国家試験出題基準からは出題数が大幅に増加されるなど、近年、その必要性について脚光を浴びつつあるところです。本学の社会歯科学研究室は、我が国の社会歯科学の礎であり、そこで教鞭を執り研究に従事することは、私にとってこの上なく光栄なことでございます。中央行政での執務経験などを生かし、学部教育と後進の育成に努めて参りたいと存じます。

また、本学の教育カリキュラムに対する取組の先進性とその改革のスピードは、国内外を問わず最先端にあると言ってよいでしょう。その中で、スタッフの一員として後れをとることなく、さらなる教育改革に邁進する所存でございます。

歴史と伝統ある東京歯科大学の名に恥じぬよう、努力を重ねてまいりますことを誓いまして、准教授就任の挨拶とさせていただきます。

衛生学講座

杉　原　直　樹

このたび、教授会のご推挙により、平成22年4月1日付けをもちまして、衛生学講座准教授を拝命いたしました。大学の水道橋移転を数年後にひかえ重要な時期に身に余る光栄でありますとともに、身の引き締る思いでおります。昭和62年に東京歯科大学を卒業し口腔衛生学講座（現衛生学講座）の大学院に入学して以来、恩師高江洲義矩名誉教授、松久保 隆主任教授、眞木吉信教授など諸先輩方から数多くのことを教えていただき、今後も教育、研究に研鑽を励んでまいりたいと決意しております。

まず教育に対する抱負ですが、本講座が担当する教科は広領域であることから、どうしても知識偏重型の教育になりがちですが、教授方法の改善やWebを利用した学生に理解しやすい教材の開発など効率的な講義・実習の実施に取り組んでいきたいと考えております。また衛生学・口腔衛生学は人間を研究する学問であり、その人の保健行動および社会経済的状況を含めた機能、さらに地域までを評価しなければなりません。地域を評価する目を養い、さらには地域保健にリーダーとして関与できる歯科医師の育成に取り組んでいきたいと考えております。

また研究においては、大学院からの研究テーマである高齢者の口腔保健と歯根面齲蝕の疫学研究の継続に加え、地域研究や臨床疫学研究について、研究の幅をさらに広げて行きたいと考えています。とくに臨床疫学研究については、医学部や海外の歯学部と比較して、教育・研究ともにかなり遅れているのが現状であり、他の基礎および臨床講座と協力して研究体制を整えたいと考えています。

微力ではありますが、東京歯科大学の発展のために少しでもお役に立てるよう努力していきたいと思います。今後とも皆様の一層のご指導、ご鞭撻を受け賜わりますようお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

市川総合病院整形外科

穴　澤　卯　圭

このたび、平成22年4月1日付けをもちまして、東京歯科大学市川総合病院整形外科准教授を拝命いたしました。専門は整形外科・骨軟部腫瘍です。私は平成2年に山形大学医学部を卒業後、同年、慶應義塾大学整形外科学教室に入局、臨床研修を経た後に、平成9年1月より当院に助手として赴任しました。その後、平成13年に慶應義塾大学整形外科学教室に帰室し、骨軟部腫瘍の臨床、研究等を行い、平成16年に再度、当院に勤務となりました。初回の勤務より数えると、10年以上当院に係わっていることとなります。私の専門は骨・軟部腫瘍で、疾患によっては化学療法、放射線療法、さらに腫瘍の切除後に生じる骨、軟部組織の巨大欠損に対し、特殊な人工関節の再建、あるいは脊椎の固定などを行い、その外科的治療内容は整形外科の各分野にまたがります。一方、治療の対象には癌の骨転移も含まれます。近年、癌治療の進歩による癌患者の生存率の改善により、私たち骨・軟部腫瘍に係わる整形外科医がstage Ⅳである転移性骨腫瘍患者に積極的に関わりQOLを改善し、限りある命をより豊かにすることが社会的使命となりつつあります。現在、転移性骨腫瘍の治療はめざましい進歩を遂げつつあります。新しい腫瘍用人工関節の登場、脊椎後方固定の手技の進歩、破骨細胞抑制剤であるビスフォスフォネート製剤の登場、放射線治療、緩和ケアの進歩などです。以前は、骨転移に対し姑息的な治療で終止する場合がほとんどでしたが、現在では積極的な治療により、寝たきりの患者さんが歩くことも可能となる時代となりました。しかしながら、転移性骨腫瘍の患者さんの治療は整形外科単科で完結するものではありません。他科との連携を密にし治療にのぞみたいと思っております。また、将来の整形外科を担っていく若い世代、ことに研修医の教育にも力をそそいでいく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

学内ニュース

■市病フォーラム　第14回市民公開講演会開催

市川総合病院において毎年開催している市病フォーラム主催による市民公開講演会が、平成22年3月27日(土)午後2時より、市川グランドホテルにおいて開催された。

「本当に怖い糖尿病~糖尿病合併症と患者さん教育~」と題し、次の各テーマに分け、それぞれに講演者を立て、実行委員長である武井 泉糖尿病・内分泌センター長の司会進行のもと行われた。

1. 「糖尿病と上手く付き合うコツ～ご存知ですか?糖尿病看護相談～」
   金井千晴看護師(糖尿病・内分泌センター)
2. 「糖尿病と歯周病－認知されつつある第6の合併症－」
   髙田篤史講師(歯科・口腔外科)
3. 「糖尿病網膜症の治療で大切なこと」
   北野滋彦先生（東京女子医科大学糖尿病センター眼科教授）
4. 「糖尿病を病気にしないコツ－糖尿病の療養指導－」
   松岡健平先生（慶應義塾大学医学部客員教授、東京済生会中央病院顧問）
5. まとめ
   武井 泉教授(東京歯科大学市川総合病院糖尿病・内分泌センター長)

それぞれの専門分野から、市民の皆様が日頃から疑問に思っていることや心配していることについて、丁寧にわかりやすく講演が行われた。150名を超える入場者からは、大いに関心が寄せられ、質疑応答も活発に行われ、市民講演会は盛会のうちに終了した。

開会の挨拶をする安藤暢敏市川総合病院長:平成22年3月27日（土）、市川グランドホテル

■第304回大学院セミナー

平成22年3月30日(火)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第304回大学院セミナーが開催された。今回は米国ハーバード大ならびにボストン大歯周病科大学院Assistant Professorの久世香澄バルーク先生をお迎えし、「歯周組織のQuality -歯肉増殖と薬物について」と題する講演を伺った。

歯肉の増殖を引き起こす原因には遺伝的および環境的影響に起因する個々の感受性や薬物の副作用によるものなど様々なものがある。昨今の有病率の増加に伴い歯周病科に来院する患者は何らかの薬物を服用していることが多いといわれている。セミナーでは好ましくない薬物の副作用が歯周組織に顕われる例として歯肉の増殖について、臨床レベル、細胞レベル、そして分子レベルでの知見について、また、歯周病科専門医と矯正専門医との連携による症例などを通し、歯周外科手術における切開線のデザインについて歯周病学的考察を供覧した。最後にアメリカにおける専門医教育に携わる教官の一人としてのエピソードもあり、非常に興味深い、かつ有意義な講演であった。

講演される久世先生:平成22年3月30日（火）、千葉校舎第2教室

■平成22年度千葉病院レジデント辞令交付式

平成22年4月1日（木）午前9時より千葉校舎第1教室において、平成22年度千葉病院レジデント辞令交付式が行われた。

式は井上 孝千葉病院副病院長の開式の辞より始まり、石井拓男千葉病院長による訓辞、続いて新任レジデントおよび継続レジデントに各々辞令

が交付され、式は無事に終了した。

※レジデントの氏名は、人事その他欄に掲載

石井千葉病院長の訓辞に耳を傾けるレジデント:平成22年4月1日（木）、千葉校舎第1教室

■平成22年度教育職員辞令交付式

平成22年度教育職員辞令交付式が、4月1日（木）午前10時より千葉校舎第3教室において開催された。

今年度の教育職員辞令交付式は、4月1日付発令の採用（16名）、再任（32名）、昇任（7名）、配置替（2名）、任用継続（1名）で助手以上の教育職員58名が千葉校舎に集合し、金子 譲学長、薬師寺 仁副学長、井出吉信副学長、石井拓男千葉病院長、髙野伸夫法人主事、吉峯規雄事務部長ご臨席のもと、菅沼弘春大学庶務課長の司会進行により、金子学長から出席者に辞令が交付された。

辞令交付終了後、金子学長より、本学の教育職員としてこれからの大学をリードし、歯科界での大いなる活躍を期待している旨の訓辞があった。

午前10時30分より、同会場において4月1日付発令のポストドクトラル・フェローの任用（1名）・更新（1名）、リサーチ・アシスタントの任用（5名）・更新（9名）とティーチング・アシスタントの任用（18名）・更新（17名）、計51名の辞令が薬師寺副学長より交付され、午前11時に辞令交付式は滞りなく終了した。

訓辞を述べる金子学長:平成22年4月1日（木）、千葉校舎第3教室

■平成22年度歯科臨床研修開始式

平成22年4月1日(木)午後1時30分より、千葉校舎歯科臨床研修医室において、千葉病院にて研修を行う104名の臨床研修歯科医および関係者出席のもと、平成22年度歯科臨床研修開始式が行われた。式は高橋俊之研修管理副委員長の開式の辞に始まり、石井拓男千葉病院長より研修歯科医を代表して伊藤和宏研修歯科医に辞令が交付された。その後、石井千葉病院長による訓辞、角田正健研修管理委員長の挨拶が行われ、式は無事終了した。

市川総合病院では、医科と歯科の合同による臨床研修開始式が、平成22年4月2日（金）午前9時30分より市川総合病院の第2・3会議室で開催された。当日は、西田次郎研修管理委員長、山根源之歯科研修管理委員長、森下鉄夫市川総合病院副病院長、外木守雄歯科研修管理副委員長並びに濱野孝子看護部長からの挨拶をいただき、引き続いて、医療安全管理、感染管理、保険医療、処方の仕方についての講習が行われた。

水道橋病院では、平成22年4月1日（木）午前9時より、水道橋校舎第1・2会議室において行われた。古澤成博水道橋病院研修管理委員会委員長の開式の辞の後、臨床研修歯科医11名が紹介され、柿澤 卓水道橋病院長より辞令が交付された。続いて、病院長訓辞があり、開始式は終了した。

研修歯科医に訓辞を述べる石井千葉病院長:平成22年4月1日（木）、千葉校舎歯科臨床研修医室

訓辞を受ける臨床研修歯科医:平成22年4月1日（木）、水道橋校舎第1・2会議室

■第7回試験問題作成に関するワークショップを水道橋校舎で開催

平成22年4月3日（土）、水道橋校舎において第7回試験問題作成に関するワークショップを開催した。本学では、平成12年度から教員の教育能力向上を図るために「カリキュラム・プランニングWS」と「試験問題作成に関するWS」を開催してきた。大学機能の水道橋への移転に伴い、水道橋病院の教員が教育に果たす役割は今後ますます大きくなることから、口腔健康臨床科学講座所属の教員22名を対象に、水道橋病院における教育力の向上を目指すとともに、本年度から改編された臨床実習プログラムに対応することを目的として実施した。

好天に恵まれ、都心を一望できる改装された水道橋校舎13階の教室とセミナー室で、歯科医学における基本的な知識の理解と総合的な診断能力・問題解決力を総括的に評価するための多肢選択式問題作成、試験問題の厳正な管理について個人演習と4グループによるブラッシュアップによ

り実践的なワークショップを行った。多肢選択式問題の作成に不慣れな教員もいたが、ワークショップの後半には積極的なディスカッションと全体討議が繰り広げられた。受講者からは「学習目標（GIO）、行動目標（SBOs）の重要性を再認識した」「評価を行うためには、教員が正しい教育手法を身につけることが必要であることが解った」等、今後の水道橋校舎における教育の更なる充実に期待が膨らむ意見が寄せられた。

閉講式において、井出吉信副学長から今後の水道橋病院における教育への期待と激励の言葉とともに受講者全員に修了証が手渡された。

本ワークショップは、水道橋病院教員のモチベーションならびに今後の臨床教育の質の向上へ直結してゆくものと考えられた。

ワークショップを終えて:平成22年4月3日（土）、水道橋校舎13階教室・セミナー室

■平成22年度新入生・編入者オリエンテーション実施

平成22年4月6日（火）午前9時より新入生及び編入者を対象としたオリエンテーションが、教養棟第5教室において行われた。

学生生活に関する事項として、井出吉信副学長より「学生生活の心構え」、小田 豊教務部長より「教務部の立場から」、佐藤 亨学生部長より「学生部の立場から」、橋本正次教養科目協議会幹事より「教養の立場から」と題し、微にいり細にいり詳しく説明が行われた。

学生生活の第一歩、真剣な表情で話を聞く新入生:平成22年4月6日（火）、千葉校舎教養棟

午後は、千葉病院内科大久保 剛准教授より「健康管理について」、また中村光博学生部副部長から「校歌の紹介」があった。最後に千葉校舎及び千葉病院の施設見学が行われ、午後4時過ぎに終了した。

■平成22年度大学院歯学研究科入学式

平成22年4月8日（木）午前10時より千葉校舎第1会議室において、平成22年度東京歯科大学大学院歯学研究科入学式が挙行された。川口 充大学院教務部長の開式の辞に続き、新入生の紹介を行った。そして、新入生代表渡部幸央君に金子 譲学長から入学許可証が授与された。続いて金子学長の訓辞、柳澤孝彰大学院研究科長の挨拶の後、新入生を代表して渡部君が宣誓し、入学式を終了した。なお、入学式に引き続き一期会賞の授賞式が行われ、一期会 西山 巌会長より渡部君に表彰盾と金一封が贈呈された。

大学院入学式風景:平成22年4月8日（木）、千葉校舎第1会議室

■大学院オリエンテーション開催

平成22年4月8日（木）午後1時より千葉校舎第1会議室において、本年度の大学院新入生を対象にオリエンテーション（研究施設説明会）が開催された。

説明会は、柳澤孝彰大学院研究科長の挨拶の後、TDC-Netの活用について河田英司情報システム管理委員長、図書館の文献検索について高橋英子図書課長、口腔科学研究センターについて井上 孝

口腔科学研究センター所長、研究機器について石原和幸研究機器管理部長、アイソトープ研究について佐藤 裕アイソトープ研究室主任、実験動物施設に関して、田﨑雅和実験動物施設管理部長、大学院選択科目について川口 充大学院教務部長、学外総合セミナーのプレゼンテーションについて一戸達也大学院学生部長から、それぞれ説明が行われた。

オリエンテーション風景:平成22年4月8日（木）、千葉校舎第1会議室

■第8回試験問題作成に関するワークショップ開催

平成22年4月10日（土）午前9時より第1教室、第2～6セミナー室において共用試験CBT問題作成のためのアドバンス・ワークショップとして、徳島大学から松尾敬志教授を、昭和大学から井上富雄教授を講師に迎え、開催した。

今回は、平成17年度から正式実施されている医療系大学間の共用試験におけるCBT問題（タイプA、順次解答2連問（W）、順次解答4連問（Q）、多選択肢2連問（L））の作成方法の理解を深めることを目的としたものであった。

はじめに、共用試験の概要について、次に問題の基本的な作成方法、問題タイプ別の作成方法、

全体討論風景:平成22年4月10日（土）、千葉校舎第1教室

注意点等の説明を受けた。更に問題作成のスキルアップを目指し、5グループに分かれて、まずは個人およびグループで多肢選択式問題のブラッシュアップを行った。最後に全体で各グループのブラッシュアップした問題に関して意見を交換した。

当日は教育職員35名が出席し、講師の先生方も交えて活発な討議が行われ、最後に、受講者に修了証書が授与され、午後6時20分盛会の内に終了した。

■平成22年度新入生学外セミナー

平成22年度新入生学外セミナーが4月14日（水）から4月16日（金）までの2泊3日の日程で、木更津市の「かずさアカデミアパーク」で行われた。

本セミナーは、毎年1年生を対象に「歯科大学1年生としての学習の心構え」、「How to learn,how to study」、「新入生同志の親睦」の3点を目的として実施されている。

新入生は14日（水）午前9時30分に大学を出発、午前10時45分より開講式、11時より金子 譲学長によるセミナー講演を受講した。昼食後、午後1時より田中和夫千葉西警察署署長の講演があり、午後1時50分からは平田創一郎准教授によるコンセンサス・ゲームが行われ、午後3時50分より1回目のグループ討議に入った。グループ討議は、新入生を12のグループに分け、それぞれ割り当てられたテーマについてディベートを行った。午後6時30分より、テーブルマナー講習会を兼ねた夕食会があり、ホテルの講師からフォーク、ナイフの使い方や食事中のエチケットなどの細かなマナーについて説明を受けた。食事を楽しみながらテーブルに同席した教職員やクラスメートと親睦を深めた。

2日目の15日（木）は、橋本正次教養科目協議会幹事による「問題点の解決法、レポートのまとめ方」、市川総合病院消化器内科部長の西田次郎教授による「身体と心の健康管理」、藤関雅嗣先生より「臨床医から新入生へのメッセージ（歯科医療の現場から）」と題した3つの講演や、公開ディベートに向けた2回のグループ討議で資料収集やディベートの内容が話し合われた。その後、午後6時30分より懇親会が行われ、中村光博学生副部長による校歌の練習、ビンゴゲームなどを通じて大

いに盛り上がった。懇親会で充分にリフレッシュした新入生たちは、翌日のグループ発表に向け自主的に夜遅くまで準備に取り組んでいた。

最終日の16日（金）は、午前9時よりグループごとに3会場に分かれて「公開ディベート」が行われた。各会場において「肯定派」と「否定派」に分かれて、激しい議論が交わされた。質疑応答も活発に行われ、充実した「公開ディベート」となった。

最後に小田 豊教務部長による閉講の辞により、3日間に亘るセミナーを終了した。

帰路に市川総合病院に立ち寄り病院見学等が実施された。オーラルメディシン・口腔外科学講座のスタッフの先導により病院内を見学し、小休止後、講堂において髙田篤史講師の進行により、森下鉄夫市川総合病院副病院長、濱野孝子看護部長からご挨拶をいただき、各診療科部長より教育概要の説明を受けて新入生学外セミナー並びに市川総合病院見学の全日程を終了した。

講演される田中千葉西警察署署長:平成22年4月14日（水）、かずさアカデミアパーク

テーブルマナーにて談笑する学生と小田教務部長:平成22年4月14日（水）、かずさアカデミアパーク

懇親会にて:平成22年4月15日（木）、かずさアカデミアパーク

公開ディベート風景:平成22年4月16日（金）、かずさアカデミアパーク

■山本あや助教　NPO法人日本歯科放射線学会奨励賞を受賞

平成22年4月23日（金）～25日（日）に開催された特定非営利活動法人日本歯科放射線学会第51回学術大会（鶴見大学記念館・神奈川）において、歯科放射線学講座山本あや助教が、NPO法人日本歯科放射線学会奨励賞を受賞した。本賞は原著論文において優秀と認められ、今後のさらなる研究発展が期待される者に贈られる賞で、学術委員会によって選考される。受賞論文は、"Utility of re-windowing for MR T2-weighted images in differentiating benign tumors and cysts. Oral Radiology, 25: 43- 46, 2009."で、MR画像上で良性

受賞した山本助教及び賞状:平成22年4月24日（土）、鶴見大学記念館

腫瘍と嚢胞を鑑別する際に、造影を施行することなくT2強調画像上で最適なウィンドウ値を調節することが鑑別の一助となることを検討したものである。本研究は、診療上の疑問により施行されたretrospective研究である。腰をすえて診療にあたることにより、患者さんに余計な負担をかけずに有用な診断情報を与えることができることが本論文で実証された。今後の研究の発展が期待される。

■第93回歯科医学教育セミナー開催

平成22年4月26日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第93回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「新年度の教育体制について」と題し、井出吉信副学長、小田 豊教務部長より説明が行われた。

はじめに、井出副学長より本学の平成22年度入学試験の状況について、他大歯学部の入学状況と併せて紹介・比較し、歯学部の現状が説明された。定員を満たした私立大学歯学部がわずか6校で、さらに志願者数も本学を含め全体的に減少するという厳しい状況に置かれており、今後いかにして志願者を確保しなければならないか、とのことだった。

次に第103回歯科医師国家試験の講評が行われた。私立では第1位を維持し、前年に引き続き全国平均を大きく上回る好結果であったが、合格率が上昇している他大学を紹介し、今後も引き続き教育改善に取り組む必要があると説明された。

続いて、小田教務部長より、「平成22年度の教育方針」について、説明が行なわれた。

まず、カリキュラム編成上の変更点や、改善すべき点などが紹介された。次に昨年度の出席状況、試験の受験資格に係わる出欠に関する注意事項等について説明された。また、試験、成績におけるセキュリティ確保の問題及び、各学年の科目試験と総合学力試験の比較・分析等がなされた。

説明する小田教務部長:平成22年4月26日（月）、千葉校舎第2教室

当日は120名近い参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。

■平成22年度大学院新入生学外総合セミナー

平成22年度大学院新入生学外総合セミナーが、平成22年5月12日(水)から14日(金)の2泊3日の日程で、静岡県の富士教育研修所で行われた。出発時はあいにくの雨だったが、到着する頃には青空から日差しも差し込む天気となった。社会人2名を含む39名の大学院生が参加し、充実した大学院生活を過ごせるよう多様な内容で行われた。引率教員は、柳澤孝彰大学院研究科長、川口 充大学院教務部長、一戸達也大学院学生部長が参加、また講演演者として、河田英司教授（歯科理工学講座)、佐野 司教授（歯科放射線学講座)、四宮敬史助教(薬理学講座)が参加された。

初日は予定より早く到着したので、午後の開講式を昼食前に繰り上げ、開講式終了後に研修所玄関前で集合写真を撮影してから昼食に入った。

午後からは、オリエンテーション、佐野教授による「医学統計学の基礎」と題した講演が行われた。講演の冒頭では、難解な統計学をプロ野球の順位や打率などに置き換え、解りやすく解説頂き、聴講者も一様にして聞き入っていた。

続いて、河田教授による「カリキュラムプランニング概論」と題した講演が行われ、これから教育に携わる一員となるための、方策等について語られた。その後、2回目のグループ討議が行われ、仮想研究の実施について、引率教員からの的確なアドバイスに耳を傾けていた。

2日目は、午前9時より個人発表が行われた。これは、各自がセミナー前に海外論文を読み、背景および目的･方法･結果･考察を基に、クリティカルな面も踏まえ自論を展開、各グループより選出された1名の学生がそれぞれ行った。また、四宮助教による「私と大学院生活」と題した講演が行われ、体験談を踏まえた大学院生活が語られ、早い時期に研究テーマを見据え、厳しい中にも充実した修

学が送れるようアドバイスがなされ、参加学生には大いに参考になったことであろう。講演終了後、昼食を挟んで内容の濃いグループ討議が行われていた。

午後2時より自由時間となり、御殿場のアウトレットモールで各々の時間を過ごし一時の自由時間を満喫していた。

最終日には、グループ発表が行われた。各グループ共与えられた研究テーマについてこの2日間に考察を深め、内容の濃い発表がされた。最優秀グループには賞品として、高級チョコレートがグループ員全ての者に授与された。

活発な議論で課題に取り組むグループ討議:平成22年5月12日（水）、富士教育研修所

丁寧に個人発表をする大学院生:平成22年5月13日（木）、富士教育研修所

■第305回大学院セミナー開催

平成22年5月12日(水)午後6時より千葉校舎第1教室において、第305回大学院セミナーが開催された。今回は国立長寿医療研究センター病院先端機能回復診療部歯科口腔外科の角 保徳医長を講師にお迎えして「光干渉断層画像診断機器を用いた新時代の歯科診断システム」と題する講演を伺った。

口腔顎顔面領域の疾病に対してはエックス線、CT、MRIが有効な画像検査法として挙げられる。とくに硬い歯や骨においては視診と触診以上の情報をもたらしてくれる。しかし、被曝による発癌リスクや閉所恐怖によるストレスなど、ある程度の侵襲を患者に強いることになっていた。今回、ご紹介いただいた光干渉断層画像診断機器は生体に無害な近赤外光を用いた最新の技術によって、非侵襲下に組織の精密断層像をえることができ、なんとCT、MRIの数十倍の解像度を有することが示された。さまざまな研究データをもとに、基礎物理から臨床応用まで詳細な内容を分かり易く解説していただいた。実用に向けて、さらなる改良機の開発なども紹介された。大変内容の濃い有意義な1時間のセミナーであった。

講演される角医長:平成22年5月12日（水）、千葉校舎第1教室

■古屋英敬大学院生ゴールドリボン賞を受賞

平成22年5月13日（木）～15日（土）に開催された第30回日本骨形態計測学会（米子コンベンションセンター・鳥取）で解剖学講座古屋英敬大学院生（3年）が「日本人下顎骨前歯部における生体アパタイト結晶の配向性」という内容で発表し、ゴールドリボン賞を受賞した。本学会は、日常整形外科臨床と骨に対する基礎的研究の融合をテーマとした学会で、昭和54年より行われている。本賞は、発表内容に新規性があり、示唆に富む優れた発表に贈られる優秀賞である。授賞式は、第30回日本骨形態計測学会総会の中で行われた。

受賞対象となった研究内容は、ヒト下顎骨における生体アパタイトの結晶配向性を、X線回折装置を用いて定量評価し、下顎骨に加わるメカニカルストレスとの関係について考察を行ったものである。この研究は大阪大学との共同プロジェクトであり、ナノレベルでの骨質評価として近年注目

されている分野である。特にヒト顎骨に関する報告はこれまでされていないため、その新規性が注目された。

受賞した古屋大学院生:平成22年5月15日（土）、米子コンベンションセンターBIGSHIP

■泉水祥江レジデント、児島泰子レジデント優秀発表賞受賞

平成22年5月19日(水)、20日(木)に、愛知県・名古屋市の名古屋国際会議場にて開催された第48回日本小児歯科学会大会において、本学小児歯科学講座の泉水祥江レジデント・児島泰子レジデントが、優秀発表賞を受賞した。この賞は、小児歯科学分野で優れた研究結果を挙げ、将来の発展に貢献が期待できる発表に贈られるもので、同大会に発表された154演題のうち､6名が受賞した。

泉水レジデントは、無汗型外胚葉異形成症の原因遺伝子解析について発表を行った。現在は同疾患の根本的治療法はなく、治療は医科的、歯科的な対症療法に限られているが、今回の研究は今後の治療法の開発の一助となることが期待される。児島レジデントは吸指癖の上顎歯槽部・口蓋へ及ぼす影響についての発表を行った。従来、吸指癖の影響についての研究は、歯列部に限局したもの主であったが、今回は上顎歯槽部や口蓋について詳細に計測し、比較検討を行った。これにより、吸指癖は口蓋の深さより口蓋の幅に大きな影響を与えることが明らかになった。今後、小児歯科臨床への応用に一層の発展が期待される。

受賞した泉水レジデント（右）、児島レジデント（左）：平成22年5月20日（木）、名古屋国際会議場

■第94回歯科医学教育セミナー開催

平成22年5月24日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第94回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「海外の大学訪問の報告」と題し、井上 孝国際渉外部長・新谷益朗准教授より説明が行われた。

はじめに、井上国際渉外部長より世界の歯科関連事情について、いくつか例を挙げて、世界の他大学との結びつき・協調の重要性を説明した。

次に、新谷准教授より訪問した地域について、写真・図を交えて紹介があった。今回の海外訪問の目的は、姉妹校協定の見直し・再締結、歯科臨床シミュレーションシステムとそれを実際に活用している大学の視察を兼ねたものであった。各国大学歯学部訪問紹介では、施設の充実性、教育体制の相違、歯科医師事情の違いといった日本とは大きく異なる点や見習わなければならない点、地域ならではの特徴が見られるなど興味深い内容であった。

シミュレーションシステムの視察では、全体の治療の流れを捉えることに重点が置かれているシステムで、臨床の場で大いに重用されているとのことであった。

当日は120名近い参加者が集まり、大変有意義なセミナーとなった。

説明する新谷准教授:平成22年5月24日（月）、千葉校舎第2教室

■平成22年度第1回水道橋病院教職員研修会開催

平成22年5月24日（月）午後5時30分より、平成22年度第1回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、水道橋病院眼科吉野真未助教および口腔外科笠原清弘講師の両氏が「各部署で取り組む医療安全対策」と題してそれぞれ講演した。吉野助教は、眼科領域において他病院などから報告があった医療事故について実例を示した後、水道橋病院における医療事故防止への取り組みについて手術室と外来のそれぞれについて説明した。手術室においては、患者および術眼の誤認防止のために、医師と看護師による「ダブルチェック」、術眼への「マーキング」並びに手術開始直前の「タイムアウト」を有効に活用していることを具体的に解説した。また外来では、各種検査を実施するが、検査依頼書の誤記入防止について説明された。その後、眼科における感染予防の面から、例年夏に流行のピークを迎える「流行性角結膜炎」について解説した。「流行性角結膜炎」は、感染力が極めて強いウイルス性疾患であるため、職場および家族間はもちろん、通勤途中でも感染する可能性があることから、日常生活における感染予防方法と発症時の対応法について解説があった。

引き続き笠原講師より、平成21年度の水道橋病院におけるインシデント・アクシデント報告内容を示し、その中で報告数が年々減少しているものの、依然として「針刺し事故」が多かったことについて注意があった。さらに「針刺し事故」発生時の各部署における正確かつ迅速な対応のために、院内感染防止マニュアルを再確認するように要請があった。最後に吉野助教と同様、医療事故防止に「タイムアウト」の活用が大変有効であることを強調し講演は終了した。

その後、小児歯科辻野啓一郎講師より、平成21年12月21日に実施した「手洗い実習」の結果報告が行われた。報告では、「手洗い実習」の回数を重ねた結果、洗い残し部位に改善傾向が認められ、実習成果が得られていることが説明された。しかし、手の甲の洗い残し、第2指、第3指および手首における洗い残しが依然として認められたことから、更なる手洗いの徹底が要請された。

最後に口腔外科高野正行准教授より、医療安全は医療の質に関わる重要な課題であることから、今回の講演内容を日々の診療で活用し、水道橋病院の医療の質の向上に一丸となって取り組んでいただきたいとの総括があり研修会は終了した。

今回の研修会はいずれも具体例を多数提示された解りやすい内容であったことから、参加者は終始熱心に聴講し、大変有意義な研修会であった。

講演する吉野助教:平成22年5月24日（月）、水道橋校舎

■第9回水道橋病院症例報告会開催

平成22年5月27日（木）午後4時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにて第9回水道橋病院症例報告会が開催された。この会は、平成14年に「水道橋病院口腔外科症例報告会」として発足し、平成18年からは「水道橋病院症例報告会」と改称し、紹介医の先生方との密接な病診連携を推進し、日常取り組んでいる臨床についての相互理解を深めることを目的として、例年開催しているものである。会に先立ち、本会の発足人である柿澤 卓水道橋病院長より、これまでの御礼と、今後も医療連携を病院として更に推進したい旨の挨拶があった。

今回は「知っててよかったPart Ⅱ」をテーマとして、日常臨床で遭遇する諸問題について、科学的根拠を踏まえた対応策を提示した。講演は、「炭酸ガスレーザーを用いた眼瞼下垂手術」（ビッセン弘子教授、吉野真未助教（眼科））、「失敗症例から考えるインプラント適用時の注意点」（関根秀志准教授（口腔インプラント科））、「睡眠時無呼吸症候群における歯科の役割」（細川壮平助教（総合歯科））、「平成22年度の保険改正における障害者の新規項目について」（山口和彦水道橋病院非常勤講師）、「日常臨床で注意したい口腔粘膜疾患　－チェアーサイドでできる対応－」（片倉 朗准教授（口腔外科））の5題で、各講演終了後には、約100名を超える参加者との活発な質疑応答が行われた。

ホールのロビーおよび会議室では、各診療科、看護部、歯科衛生士部によるポスター発表14演題と、協賛業者による展示も行われ、盛会のうちに終了した。

症例報告会での講演:平成22年5月27日（木）、水道橋校舎血脇記念ホール

■'ふれあい看護体験'2010実施

市川総合病院では、5月29日（土）に「ふれあい看護体験」を実施した。

「ふれあい看護体験」は、看護に関心のある人や看護師を目指す方々に、実際に病院で看護を体験していただき、患者さんとのふれあいをとおして命の尊さや看護の仕事について理解と関心を深めることを目的として企画された事業である。毎年5月12日のナイチンゲールの誕生日を「看護の日」と定め、この時期に実施している。今年度も高校3年生9名（うち男子学生2名）の方々が、看護協会を通して、当院でのふれあい看護体験に参加していただいた。

当日は濵野孝子看護部長の挨拶、担当副看護部長から看護体験を実施するにあたっての注意点（個人情報の保護・守秘義務、感染防止など）について説明後、5つの病棟に分かれて、看護師とともに清拭、足浴、洗髪、配膳、食事介助などの見学、車椅子での移送、経管栄養の準備などを経験していただいた。

看護体験後に病棟の指導者、看護部との懇談会を行いましたが、参加者から「医療現場に入るのは初めてであったが、患者さんとふれあってみて、一番大切なことはコミュニケーションであると思った。」「看護師はさまざまなことに気遣いながら、どんな患者さんにも柔軟に接しているのを身近で見ることができ学びになった。」「病院に対して漠然としたイメージしかなかったが、いろいろなことを体験してみたことによって、少しイメージがわいた。」などの感想を頂き、医療に対する興味や理解が更に深まったのではと思った。また、男子学生も含め参加者全員が看護師を目指していると聞き、うれしく思った。一般的には高等学校を卒業し、直ちに看護学校に進学するケースが多いと思われているが、近年は、大学卒業後、あるいは社会人から看護職を目指す人が多くなってきている。より多くの経験を積み、人間としての豊かさを持った人達も、こうした「ふれあい看護体験」をとおして、看護職へ踏み出す機会となればと、今後も継続して実施したいと考えている。

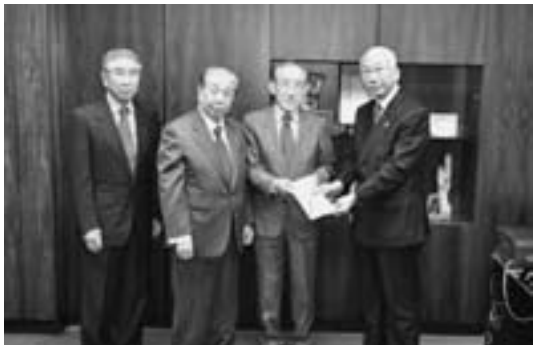
トピックス

■クラス会（いとし会:昭和24年卒業）より大学へのご寄付

昭和24年卒業のクラス会（いとし会）一同より、卒後60周年を記念して大学へ100万円が寄付された。

平成22年4月22日（木）、水道橋校舎学長室において、いとし会会長の齋藤 久先生、幹事の杉山邦夫先生、宮田俊昭先生から金100万円が金子 譲学長に手渡された。

いとし会では、本年3月のクラス会幹事会にて、母校の水道橋移転事業を応援する寄付の提案がなされた。この提案の実行は、大学側の事情も考慮し、なるべく早期にということになり、齋藤会長



金子学長へクラス会（昭和24年卒業:いとし会）より寄付金を手渡す齋藤先生（中央右）と杉山先生（中央右）、宮田先生（左）:平成22年4月22日（木）、水道橋校舎学長室

より会員家族へ寄付の趣旨に賛同をいただきたい旨の書簡を送付し、会員の総意として今回の寄付につながったとのことである。

いとし会からは、「今回の寄付は、卒後60周年を迎えるにあたり。母校のさらなる発展と燦たる未来を願うものであり。特に寄付金の用途については問わないこととしたい。」とのお話をいただき、和やかなうちに贈呈式が執り行われた。

■クラス会（十二期会:昭和39年卒業）より大学へのご寄付

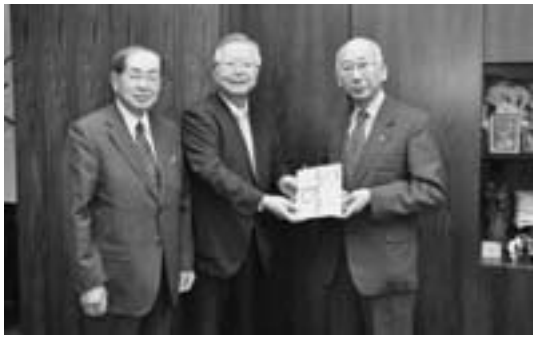
昭和39年卒業のクラス会（十二期会）から5月29日（土）に120万円が大学に寄付された。

東京オリンピックがあった昭和39年卒の十二期会は、卒業以来1年も休まず全国にいる級友が幹事を引き受けてクラス会を毎年開催している。

本年は母校の創立120周年祝賀会に併せて、前日の21日の昼下がりに東京駅鍛冶橋バスプールを出発して、さいかち坂から白山通りの建設用地を見学してから稲毛に向かい、千葉校舎・千葉病院をゆっくり見学した後にヒルトン東京ベイに於いて第45回目の総会・懇親会が開催された。

その総会において、会員から母校の水道橋移転事業と同級生である金子 譲学長を応援するために寄付金の提案がなされ、満場一致で賛同され、金額も母校の創立120周年と十二期会の12という数字に因んで120万円に決められたとのことである。

丹野 研会長はICD出席のため不在でしたが、善は急げとばかりに、総会から1週間後の5月29日に会計担当の増田紀男先生と片倉恵男先生から金子学長に手渡された。



金子学長へクラス会（昭和39年卒業:十二期会）より寄付目録を手渡す増田先生（中央）、片倉先生（左）：平成22年5月29日（土）、水道橋校舎学長室

学生会ニュース

■学生会主催新入生オリエンテーション開催

平成22年4月10日（土）午後1時より学生会主催による恒例の新入生オリエンテーションが、教養棟第5教室で開催され、多くの新入生が参加して大変な賑わいを見せた。

初めに、主催者である川上良明学生会総務委員長（5年）より、学生会の活動内容について説明があり、「勉強ばかりではなくクラブ活動にも積極的に参加し、文武両道を目指して、メリハリのある学生生活を送ってほしい。」と新入生へエールが贈られた。続いて、星野立樹東歯祭実行委員長（3年）より東歯祭について、また渡邉美貴歯科学生交流会局長（5年）より延世大学校歯科大学との交流プログラムについて説明があった。続いて運動系・文化系それぞれのクラブ・同好会の紹介が行われた。

クラブ・同好会の紹介は、午後1時20分～午後2時30分と午後2時40分～午後4時の二部構成で行われた。一人でも多くの部員を集めようと試行錯誤のあとが見られるクラブや敢えて地味な勧誘で新入生の気を引こうとするクラブなど様々だった。また、Big Band Jazz部、管弦楽部、ダンス部など実技の披露で魅せるクラブや、手作りのチラシや野菜を配布するクラブもあり大変な盛り上がりを見せた。昨年度に続いて歯科衛生士専門学校生もオリエンテーションに参加し、午後4時20分に終了すると出口には各クラブの先輩方が待ち受けており入部名簿に署名する新入生の姿が見受けられた。

心に響く音色を奏でる管弦楽部の生演奏:平成22年4月10日（土）、千葉校舎教養棟第5教室

国際渉外部レポート

■学長主催留学生懇親会開催

平成22年3月3日（水）午後6時より、幕張のホテル・ザ・マンハッタンにて、第13回学長主催留学生懇親会が開催され、金子 譲学長、薬師寺 仁副学長、柳澤孝彰大学院研究科長をはじめ、外国人留学生・研究者、指導教員、国際渉外部運営委員、留学生関連業務を行う事務職員のほか、平成21年度に英語関連行事で活躍した学生を含む総勢33名が参加した。

今回は4ヶ国13名の外国人留学生が出席した。台湾からは、歯科麻酔学の学位を取得されたDr. 蔡 鵬飛、社会人大学院生Dr. 黄 明裕（歯科麻酔学）、Dr. 柯 文昌（口腔外科学）、Dr. 洪 榮杰（臨床検査学）、歯科保存学の受託研究員Dr. 呉 宗隆、学部学生の蔡 涵雅さん、劉 文蓉さん。韓国は、客員講師Dr. 辛 承一（臨床検査学）、専修科生Dr. 崔 允榮（歯科矯正学）、学部学生の姜 東勲君。中国は、日中笹川医学奨学金研究者のDr. 杜 岩（臨床検査学）、訪問研究員のDr. 劉　頴風（臨床検査学）。そしてパキスタン出身の大学院生Dr. Sultan Khan（臨床検査学）である。

橋本正次教授の司会のもと、まず金子学長および薬師寺副学長の挨拶があり、金子学長から蔡先生に記念品が授与された。その後留学生が日本語を交えながら順番にスピーチし、続いて出席の教授、学生もひと言述べた。最後に金子学長を囲んで母国の国旗を手にした留学生らと参加者が記念撮影を行い、和やかな雰囲気の中で散会となった。

出席者全員で記念撮影:平成22年3月3日（水）、幕張ホテル・ザ・マンハッタンにて

図書館から

■本学教員著書リスト

（本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定）

櫻井 薫［ほか］執筆「総義歯の謎を解き明かす」永末書店、2010

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようよろしくお願いいたします。

■医学文献検索講習会を開催

平成22年5月27日（木）・28日（金）の2日間、午後6時より図書館2階視聴覚室において、医学文献検索講習会を開催した。医学文献検索の必須ツールと言えるPubMed、医中誌Web、Scopusを使い、基礎的な文献検索の方法を、実際にパソコンを操作しながら実習形式で行った。電子ジャーナルや蔵書検索、文献複写申し込みなど、実際に文献を入手する方法も説明を行った。2日間で13名の参加があり、アンケートでは「文献検索はしていたが、新しい発見があった」「PubMedとScopusの違いについて知ることができた」などの意見が寄せられた。

実習形式で行なわれた医学文献検索講習会受講風景:平成22年5月28日（金）、図書館視聴覚室

■宮内 潤教授論文 Faculty of 1000 Medicineに選出される

市川総合病院臨床検査科宮内 潤教授論文、

British Journal of Haematology誌に掲載の"Blasts in transient leukaemia in neonates with Down syndrome differentiate into basophil/mast-cell and megakaryocyte lineages in vitro in association with down-regulation of truncated form of GATA1." が、専門分野におけるランドマーク的論文または分野を越えた必読論文として、Faculty of 1000 Medicine に選出された。Faculty of 1000 Medicine は全世界で18の専門分野から、2400名以上の臨床医と研究者がFacultyメンバーとして、毎月読んだ論文の中で優れたものを推薦するもので、学術誌を格付けするImpact Factorとは異なり、個々の学術論文の格付けを行う新しい業績評価システムである。当論文は東京歯科大学学術機関リポジトリにも登録されており、オープンアクセス論文として世界中の誰もがインターネットを通じて閲覧することが可能となっている。

Faculty of 1000 Medicine　宮内教授論文の記事掲載画面　（http://f1000medicine.com/）

■リポジトリ登録1000件目記念インタビューを実施

リポジトリ登録1000件目を記念して口腔健康臨床科学講座の齋藤 淳講師にインタビューを行った。登録1000件目となった論文の内容に関して、現在進行中の研究について、機関リポジトリやオープンアクセスについてお話を伺った。インタビューの詳しい内容は東京歯科大学学術機関リポジトリのウェブサイトにて紹介されている。

・東京歯科大学学術機関リポジトリ　（http://ir.tdc.ac.jp/）

〈大学史料室から〉

■大学史料室収蔵品紹介:帝国ホテルで開催されたロヨラ大学の学位記授与式・祝賀会関連史料

大正14年6月10日、米国シカゴ市ロヨラ大学アグニュー総長から血脇守之助先生に名誉法学博士（LLD）の学位が贈られた。同年6月25日、東京、帝国ホテル演芸場に於いて学位記の授与式が行われ、バンクロフト米国大使（ロヨラ大学総長代理）から血脇先生に学位記が授与された。授与式後、宴会場（孔雀の間）に会場を移して、盛大に祝賀会が催された。史料室では、授与式の写真、学位記の他に血脇先生着衣の学位服、授与式招待状等を展示している。

バンクロフト米国大使から学位記を受取る血脇先生

ロヨラ大学から授与された学位記

歯科衛生士専門学校ニュース

■平成22年度歯科衛生士専門学校第62期生入学式

歯科衛生士専門学校第62期生の入学式は、4月2日(金)午前10時より千葉校舎講堂において、御来賓、学校関係者、在校生ならびに新入生保護者臨席のもとに厳粛な雰囲気のなかで挙行された。

橋本貞充学生部長・教務部長代行の司会のもと、国歌斉唱に引き続いて、眞木吉信副校長から新入生ひとり一人が呼名・起立により紹介され、下野正基校長から緊張の面持ちで訓辞を受けた。続いて、学校法人東京歯科大学理事長の熱田俊之助先生、金子 譲東京歯科大学学長ならびに中井麗子歯科衛生士専門学校同窓会会長よりご祝辞をいただいた。在校生を代表して3年生の合原咲子さんが歓迎の辞を、次いで新入生代表の三上真貴子さんが誓詞を述べた。新入生には歯科衛生士専門学校の徽章が校長より授与され、代表の鈴木ひとみさんの襟に輝いた。最後に在校生のリードで出席者全員が校歌を斉唱し、式は滞りなく終了した。

入学式に続き、橋本学生部長・教務部長代行から、ご臨席頂いた来賓の方々および教育に携わる教員と職員が紹介された。記念写真撮影の後、新入生たちはこれからの新たな3年間を過ごす教室に入り、学年主任・副主任から学校生活についてのオリエンテーションを受け、入学式のすべての日程を終了した。

入学式後の集合写真:平成22年4月2日（金）、千葉校舎講堂

訓　辞

東京歯科大学歯科衛生士専門学校
校　長　下野　正基

桜花満開、まさに春たけなわの本日、ここに東京歯科大学理事長、東京歯科大学学長ならびに東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会長をはじめ、多数のご来賓のご臨席をいただき、平成22年度の入学式を迎えることができましたことは、誠に喜ばしい限りであります。

新入生の皆さん、ならびに保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。本校の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

本校は、昭和24年、日本で最初に設立された歯科衛生士養成機関であり、昨年創立60周年を迎えました。すなわち、本校の歴史は日本における歯科衛生士の歴史といっても過言ではありません。今日までの60年の間に2,153名という非常に多くの卒業生を送り出してきましたが、卒業生の歯科医療および保健福祉の現場における活躍ぶりには目を瞠るものがあります。

高齢社会を迎えた我が国では、疾病構造の変化と関連して、健康に対する国民の考え方が大きく変化しており、「健康で幸福な状態」や「生活の質」を求める声が強くなってきております。口腔疾患についても、「キュアからケアへ」といわれるように、ケアが予防の中心におかれるようになっています。口腔疾患の予防や健康増進の視点から、歯科衛生士によるケアは疾病を有する患者のみならず、健康な人にも提供されており、歯科衛生士の活躍の場は近年ますます広がっています。

このような社会の多様なニーズに応えられる知識と技能を有する、歯科衛生士を育成するために、本校は平成元年に東京都千代田区から千葉市に移転し、平成16年度からは修業年限を3か年として、高い

レベルの教育を実施しております。すなわち、東京歯科大学付属千葉病院および市川総合病院という恵まれた環境での臨床実習に加えて、地域の保健所、小学校、高齢者や障害者の医療・福祉施設における臨地実習にも大きな力を注いでおります。さらに、本校は学生一人一人が研究テーマを選択し、問題発見、問題解決型学習を目指した卒業研究をいち早く導入しており、全国の歯科衛生士養成機関の注目の的となっています。

「人間は努力するかぎり悩むものだ」。これはドイツの有名な作家・詩人・劇作家であったヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテの言葉です。学業であれ、仕事であれ、人間関係であれ、今よりもっと良くしよう、さらに向上しようと努力すると、必ず悩みが生まれてきます。努力をしないで平々凡々と生きているときには、悩むことはありません。悩みは自己努力と表裏一体のものであり、決してネガティブな精神活動ではありません。悩みを解決していく過程で、人間は大きく成長、進歩するのです。悩みに押しつぶされそうになったら、ゲーテの「人間は努力するかぎり悩むものだ」という言葉を思い出し、勇気を奮い起こして下さい。

さて、新入生の皆さんは今日の日を迎え、入学の喜びと希望に溢れていることでしょう。専門的な知識、そして高い技術を備えた歯科衛生士となるために、皆さんはこれから、歯科医学・医療に関する基礎や専門の科目はもとより、保健・福祉にわたる広い分野について学ぶことになります。決して容易な道のりではありませんが、自分自身が置かれている「学生」という立場で、全力を尽くしてしっかり学んで下さい。そして、学業、人間関係について大いに悩み、解決する力を養い、人間として大きく成長・進歩していただきたいと思います。

3年間の学生生活が心身ともに健康で、実り多いものであることを心より祈念して訓辞といたします。

誓　詞

第62期新入生代表
三上　真貴子

学校長訓辞の意を体して、克く学生の本分を尽くし、必ず素志を貫徹し、本校の伝統を昂揚するよう務めることを確く誓約いたします。

■平成22年度学生会総会ならびに新入生歓迎会

新入生46名を迎え、平成22年度歯科衛生士専門学校学生会総会が4月17日(土)午前11時より、千葉校舎厚生棟1階において開催された。学校からは、橋本貞充学生部長・教務部長代行、および専任教員が出席した。

学生会の3年生、高木華佳さんと柿下茉弥さんの司会進行により、会長の小林有希さんの挨拶のあと、平成21年度活動報告と会計決算が承認され、続いて平成22年度活動計画案と予算案が満場一致で可決・承認された。

総会に引き続き、新入生歓迎会が開催され、テーブルの上のお菓子や食事をつまみながら談笑し、学年の区別もなく、和やかな雰囲気のうちに会は進行した。ビンゴゲームでは、多くの学生達に豪華な?景品が当って大いに盛り上がるなか、午後1時近くに閉会となった。

学生全員が参加しての新入生歓迎会:平成22年4月17日（土）、千葉校舎厚生棟1階

■学外研修セミナー開催

第1学年と第2学年合同の学外研修セミナーが平成22年5月14日(金)、15日(土)に1泊2日の日程で千葉みなとの「ホテル・グリーンタワー千葉」において行われた。グループディスカッションとその発表を行うことで、問題発見、整理、解決に取り組み、協力し合う態度を身につけ、さらに、学生同士の親睦を深めることを目的として毎年開催している。

午前10時30分より開講式がはじまり、下野正基校長からご挨拶をいただいた。研修セミナーのプログラムは、まず、2年生による「口腔清掃用具に関する報告」から始まった。1年生の夏休みにまとめた課題を元に、歯ブラシ、歯間部清掃、歯磨剤と洗口剤、電動音波歯ブラシなどについて、キリンとゾウのグループ対抗形式で、それぞれ4つのグループに分かれ、お互いのグループを評価する形式で、歯科衛生士として患者さんの歯科保健指導のための、身近な口腔清掃用具について、調査した結果を、わかりやすくプレゼンテーションが行われた。昼食後、グループ対抗のコミュニケーショントレーニングを行って、緊張感をほぐした後、最初のグループディスカッションが始まった。1年生は「ネチケットを守るには」、2年生は「相互・臨床実習を就職に生かすには」をテーマに、KJ法によりグループ毎に活発なディスカッションを行い、その結果をまとめて発表した。ホテルの宴会場でのゆったりとした夕食を済ませた後、今度は、1年生は「日本は宇宙開発を迅速に進めるべし」、2年生は「日本は18歳を成人とすべし」をテーマに、賛成派と反対派に分かれてディベートを行った。1グループにつき3回の対戦では、熱のこもった弁論と質疑応答が繰り広げられ、夜の9時過ぎに研修第1日目の日程を終了した。

2日目、バイキング形式の朝食後、8時20分より1・2学年合同のグループに分かれ、「衛生士として幸せをつかむには」をテーマに、KJ法でさま

グループでのディスカッション:平成22年5月14日（金）、ホテル・グリーンタワー千葉

グループのまとめの発表:平成22年5月15日（土）、ホテル・グリーンタワー千葉

ざまなアイデアを出しながらディスカッションを行った。はじめは2年生に遠慮気味の1年生達も、だんだんと自分の意見を話すようになり、グループが一つとなって結果をまとめて2つの会場に分かれ、最終発表を行った。発表について総評のあと、全員での記念撮影を和やかに行い、校歌斉唱から閉校式にのぞんだ。下野校長から研修の成果についてご挨拶をいただいたあと、コミュニケーションゲームとディベート、そしてKJ法でのグループディスカッションの評価の集計で勝利した、チームの全員に、記念品が手渡され、すべての日程を終了し解散した。

■台北醫學大学・歯科衛生士校一行が東京歯科大学歯科衛生士専門学校を訪問

平成22年5月21日(金)、東京歯科大学120周年記念式典および姉妹校会議のために来日された、台北醫學大学・歯科衛生士校校長で口腔医学院主任教授の王 蔚南（Wang Wei-Nan）教授ご夫妻と、鄧 乃嘉（Teng Nai-Chia）助教授、呂 玟諺先生を始め、同校の歯科衛生士とスタッフの総勢15名が来校された。下野正基校長との懇談の後、衛生士校の臨床基礎実習室において、3年生の柿下茉弥さん、下川永恵さん、渡邉愛美さんによる臨床実習のデモンストレーションのあと、江口貴子助手と共に、英語による「日本の歯科衛生士の教育システムと東歯のカリキュラム」についてのプレゼンテーションをおこなった。王校長よりスケーリング技術とプレゼンテーションについての賞賛の言葉を頂いたあと、3名の学生には記念品が授与された。その後、1年生の授業と予防処置室での臨床実習見学の後、学内を案内し、短い時間ではあったが、両校の交流を深めることができた。

下野校長と王校長を囲んでの集合写真:平成22年5月21日（金）、歯科衛生士専門学校・校長室

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

○旭川歯科学院専門学校(学生51名、教員3名)
平成22年5月11日（火）解剖標本室、病院、衛生士専門学校見学

○東京歯科大学十二期会(28名)
平成22年5月21日（金）解剖標本室、口腔科学研究センター、史料室、病院見学

■海外出張

○ビッセン弘子教授、吉野真未助教、井上 真非常勤講師、中村邦彦非常勤講師、大木伸一視能訓練士、野中亮子視能訓練士、亀井 泉研究補助員、大島キャサリン事務員(水病・眼科)
仁濟大学・東京歯科大学水道橋病院眼科合同シンポジウムに出席のため、ビッセン教授、大島事務員は4月1日（木）から4日（日）まで、吉野助教、中村非常勤講師、大木視能訓練士、野中視能訓練士、亀井研究補助員は4月2日（金）から4日(日)まで、井上非常勤講師は4月1日(木)から2日(金)まで、韓国・ソウルへ出張。

○白石 建教授(市病・整形外科)
鄭州人民病院にて招待講演のため、4月5日(月)から9日(金)まで、中国・江南省へ出張。

○山本 忍臨床専修医(市病・眼科)
世界角膜学会（World Cornea Congress）に出席のため、4月6日(火)から11日(日)まで、アメリカ・ボストンへ出張。

○篠崎尚史講師・センター長（市病・角膜センター）
世界角膜学会（World Cornea Congress）に出席のため4月6日（火）から12日（月）まで、アメリカ・ボストンへ出張。

○ビッセン弘子教授、南慶一郎非常勤講師(水病・眼科)
American Society of Cataract and Refractive Surgeryに参加、および発表のため、ビッセン教授は4月9日(金)から14日(水)まで、南非常勤

講師は4月8日（木）から13日（火）まで、アメリカ・ボストンへ出張。

○片倉 朗准教授（水病・口腔外科）
Annual Meeting Oral Medicine and Immunityにて発表のため、およびブリティッシュコロンビア大学口腔がん予防研究センター視察ならびに研究打合せのため、4月11日（日）から16日（金）まで、アメリカ・ニューメキシコ、カナダ・バンクーバーへ出張。

○山根源之教授、外木守雄准教授、野口沙希大学院生、三條祐介大学院生、山村恵子大学院生、吉田佳史大学院生（市病・オーラルメディシン・口腔外科）
American Academy of Oral Medicine 2010 Annual Meetingに参加、および発表のため、4月13日（火）から19日（月）まで、アメリカ・ニューメキシコへ出張。

○佐藤一道助教（市病・口腔がんセンター）
American Academy of Oral Medicine 2010 Annual Meetingに参加、および発表のため、4月13日（火）から19日（月）まで、アメリカ・ニューメキシコへ出張。

○外木守雄准教授（市病・オーラルメディシン・口腔外科）
第51回大韓口腔顎顔面外科学会にて招聘講演のため、4月22日（木）から24日（土）まで、韓国・忠清道へ出張。

○小板橋俊哉教授（市病・麻酔科）
韓国集中治療医学会にて招請講演のため、4月22日（木）から23日（金）まで、韓国・ソウルへ出張。

○金子 譲学長、一戸達也教授（歯科麻酔）
台湾口腔外科麻酔学会にて講演のため、金子学長は4月24日（土）から27日（火）まで、一戸教授は4月24日（土）から26日（月）まで、台湾・台北へ出張。

○佐藤 亨教授（クラウンブリッジ補綴）
26th American Academy of Cosmetic Dentistryに参加のため、4月27日（火）から5月4日（火）まで、アメリカ・ダラスへ出張。

○比嘉一成研究技術員（市病・眼科）
Association for Research in Vision and Ophthalmology、およびInternational Ocular Surface Societyに参加、および発表のため、4月30日（金）から5月8日（土）まで、アメリカ・フロリダへ出張。

○佐竹良之講師、榛村真智子助教（市病・眼科）
Association for Research in Vision and Ophthalmologyに参加、および発表のため、5月1日（土）から、佐竹講師は7日（金）まで、榛村助教は8日（土）まで、アメリカ・フロリダへ出張。

○阿部伸一准教授（解剖）
ハワイ大学において、スコット・ロザノフ教授とインプラントを安全に行うための講義、および実習コースを担当するため、5月1日（土）から6日（木）まで、アメリカ・ハワイへ出張。

○篠崎尚史講師・センター長（市病・角膜センター）
ベトナム眼科学会へ出席、およびハノイ医科大学訪問のため、5月12日（水）から23日（日）まで、ベトナム・ハノイ、およびホーチミンへ出張。

○青木 大コーディネーター（市病・角膜センター）
腎提供セミナーへ出席のため5月12日（水）から18日（火）まで、ベトナム・ハノイへ出張。

○佐藤 亨教授、荻野泰志臨床専門専修科生（クラウンブリッジ補綴）
アジア歯科審美学会クアラルンプール大会に参加、および発表のため、5月13日（木）から、佐藤教授は17日（月）まで、荻野臨床専門専修科生は18日（火）まで、マレーシア・クアラルンプールへ出張。

○島﨑 潤教授（市病・眼科）
Novartis Event in Hanoi and Hochiminhにて招待講演のため、5月19日（水）から23日（日）まで、ベトナム・ハノイ、およびホーチミンへ出張。

○白石 建教授、青山龍馬助教（市病・整形外科）
欧州頚椎外科学会で発表のため、5月23日（日）から29日（土）まで、ギリシア・コルフ島へ出張。

○阿部伸一准教授（解剖）
The Korean Association of Physical Anthropologists、および International Congress of Oral Implantにて講演のため、5月25日（火）から31日（月）まで、韓国・ソウル、および中国・青島へ出張。

○金子 譲学長（大学）
台北医学大学創立50周年記念式典に出席のため、5月30日（日）から6月2日（水）まで、台湾・台北へ出張。

大学日誌

平成22年4月

1（木）　レジデント辞令交付式
5年生オリエンテーション
専任教育職員辞令交付式
5年生（117期）登院式
PF・RA・TA辞令交付式
5年生登院器材刻印・検査
歯科臨床研修開始式
学年主任・クラス主任会
省エネルギーの日･防災安全自主点検日
4月採用者辞令交付式（市病）
辞令交付（水病）
歯科医師臨床研修開始式（水病）
臨床専門専修科生全体集合（水病）

2（金）　大学院事務連絡会
歯科衛生士専門学校入学式

3（土）　試験問題作成ワークショップ（水病）

5（月）　入学式
プログラム責任者・副責任者会議
歯科衛生士専門学校2年生前期授業開始
歯科衛生士専門学校1年生オリエンテーション（～6日）

6（火）　新入生･編入学者オリエンテーション
2・3・4年生オリエンテーション

7（水）　1・2・3・4年生前期授業開始
リスクマネージメント部会
ICT会議
基礎教授連絡会
千葉校舎課長会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
6年生オリエンテーション
歯科衛生士専門学校1年生前期授業開始
口腔健康臨床科学講座会（水病）

8（木）　大学院入学式
大学院オリエンテーション（研究施設説明会）
医療安全管理委員会（市病）
院内感染症予防対策委員会（市病）
手術室運営委員会（市病）

9（金）　ICT委員会（市病）

10（土）　第8回試験問題作成に関するワークショップ
学生会主催新入生オリエンテーション

12（月）　病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会（ICC）
臨床教育委員会
教養科目協議会
医局長会
医療安全研修会

13（火）　臨床修練委員会
臨床教授連絡会
全体教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校教員会
給食委員会（水病）

14（水）　新入生学外セミナー（～16日）
看護部運営会議（市病）
業務改善委員会（市病）
救急委員会（市病）
ICU委員会（市病）
リスクマネージメント部会（水病）
薬事委員会・医薬品安全管理委員会（水病）

15（木）　業務連絡会
高度・先進医療委員会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
部長会（市病）
医療安全管理委員会（水病）
感染予防対策委員会（水病）
個人情報保護委員会（水病）
科長会（水病）

16（金）　新入生市川総合病院見学（学外セミナー帰路時）
本学新入生オリエンテーション（市病）
感染予防指導チーム委員会（水病）
理事会（法人）

17（土）　神田女学園歯科健診（水病）

19（月）　医療サービスに関する検討会

20（火）　情報システム管理委員会
教育WS「基礎科目」作業部会
機器等安全自主点検日
院内褥瘡対策委員会（市病）
21（水）　学生部（課）事務連絡会
CPC（市病）
22（木）　千葉校舎課長会
管理診療委員会（市病）
23（金）　医療連携協議会
26（月）　第93回歯科医学教育セミナー
電子カルテシステム運用管理委員会
（診療録管理委員会）（市病）
NST会議（市病）
27（火）　薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
東洋高校歯科健診（水病）
28（水）　看護部運営会議（市病）
病院連絡協議会・診療録管理委員会
（水病）
30（金）　1～4年生休講日
社保委員会（水病）

平成22年5月

6（木）　省エネルギーの日
防災安全自主点検日
監査法人会計監査（～11日）（市病）
院内感染症予防対策委員会（市病）
治験審査委員会・倫理委員会（市病）
口腔健康臨床科学講座会（水病）
7（金）　電気設備法定検査（～9日）
8（土）　創立120周年記念学術講演会・第289回
東京歯科大学学会（～9日）［於:東京国
際フォーラム］［1～6年生特別授業日］
10（月）　大学院事務連絡会
プログラム責任者・副責任者会議
11（火）　教務部（課）事務連絡会
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
12（水）　公認会計士監査（～17日）
大学院新入生学外総合セミナー（～14日）
リスクマネージメント部会
ICT会議
千葉校舎課長会
12（水）　第305回大学院セミナー
看護部運営会議（市病）
業務改善委員会（市病）
救急委員会（市病）
ICU運営委員会（市病）
教職員定期健康診断（第1日目）（水病）
リスクマネージメント部会（水病）
薬事委員会（水病）
13（木）　医療安全研修会
医療安全管理委員会（市病）
手術室運営委員会（市病）
教職員定期健康診断（第2日目）（水病）
14（金）　歯科衛生士専門学校1・2年生学外研修
セミナー（～15日）
ICT委員会（市病）
感染予防指導チーム委員会（水病）
17（月）　病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会（ICC）
臨床教育委員会
医局長会
教養科目協議会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
薬事委員会（市病）
18（火）　臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校教員会
院内褥瘡対策委員会（市病）
決算監査（～21日）（法人）
19（水）　基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
CPC（市病）
20（木）　千葉校舎課長会
業務連絡会
高度・先進医療委員会
情報システム管理委員会
機器等安全自主点検日
部長会（市病）
平成22年度第1回研修管理委員会・協
力型施設説明会（水病）

20（木）　科長会（水病）
医療安全管理委員会（水病）
感染予防対策委員会（水病）
個人情報保護委員会（水病）

22（土）　創立120周年記念式典・祝賀会［於:帝国ホテル東京］

24（月）　医療連携委員会
第94回歯科医学教育セミナー
電子カルテシステム運用管理委員会（診療録管理委員会）（市病）
外部用監査（～26日）（法人）

25（火）　5・6年生健康診断
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
教育WS「基礎科目」作業部会

26（水）　学生部（課）事務連絡会

26（水）　看護師長研修会（市病）
病院連絡協議会・診療録管理委員会（水病）

27（木）　4年生健康診断
管理診療委員会（市病）
第9回水道橋病院症例報告会［血脇記念ホール］（水病）

28（金）　クリニカルパス委員会（市病）
社保委員会（水病）

29（土）　ふれあい看護体験（市病）
理事会（法人）
評議員会（法人）

31（月）　平成22年度定期健康診断実施（～6月4日）
看護部運営会議（市病）
NST会議（市病）

東京歯科大学広報　編集委員

内山健志（委員長）

井上直記　王子田 啓　狩野龍二　金安純一　河田英司　木村絵里奈　坂本智子　椎名 裕　柴家嘉明
新谷益朗　田口達夫　日塔慶吉　橋本貞充　旗手重雅　前田健一郎　（平成22年5月現在）

編集後記

平成19年6月1日より、広報･公開講座部長を金子学長から拝命して以来、本年5月31日を持ちまして任期の3年が経過しました。記載されております広報委員による、企画・編集は今号で最後になります。長い間、ありがとうございました。

本広報第225号の三崎神社にはじまり、編集後記の写真は大学の想い出深い場所、千葉、東京の名所、旧跡、由緒ある建築物に的をしぼって掲載してまいりました。最後は千葉県浦安市に位置する東京ディズニーランドです。ミッキーやシンデレラなどのDisney映画主人公に出会える夢と童話（メルヘン）のファンタジーランド、ウォルト・ディズニーの出身地をモデルとしたビクトリア様式の古きよきアメリカのワールドバザール、冒険とロマンのアドベンチャーランドなどからなっているディズニーランド。そしてロマンチックな南ヨーロッパの港町、ノスタルジーあふれるアメリカンウォーターフロント、海底王国など海をテーマにしたディズニーシーの二つの大きなテーマランドがあることは、ご存知のことと思います。

ウォルトはディズニーランドのオープン時のスピーチの中で、「ディズニーランドが人々に幸福を与える場所、大人も子供も、共に生命の驚異や冒険を体験し、楽しい思い出を作ってもらえる様な場所であって欲しいと願っています。」と言っております。今なお、人気を博しているのは、人々を夢の世界に引き込み、ある人は憧れのプリンセスに、ある人は冒険の主人公になれるような、そんな夢がかなう場所であるからかもしれません。そして、皆が遠慮なく飛び切りの笑顔ですごせ、平和な気持ちになれるからだとも思います。この誰でもが楽しめるというエンターテイメントの理念が半世紀以上の長きにわたって受け継がれているのは、素晴らしいことです。

ランドの中の案内人である若い女性のキャストは、お客様に対して行動案内の効率をよくするefficiency は当然のこと、safety 第一、清潔でかつ美しく見（show）せ、礼儀正しい親切なサービスcourtesy を実行するのがモットーだそうです。医療の現場にも通じる人への基本的な接遇と改めて感心します。

（広報・公開講座部長：内山健志）

ディズニーランドのシンボル、シンデレラ城